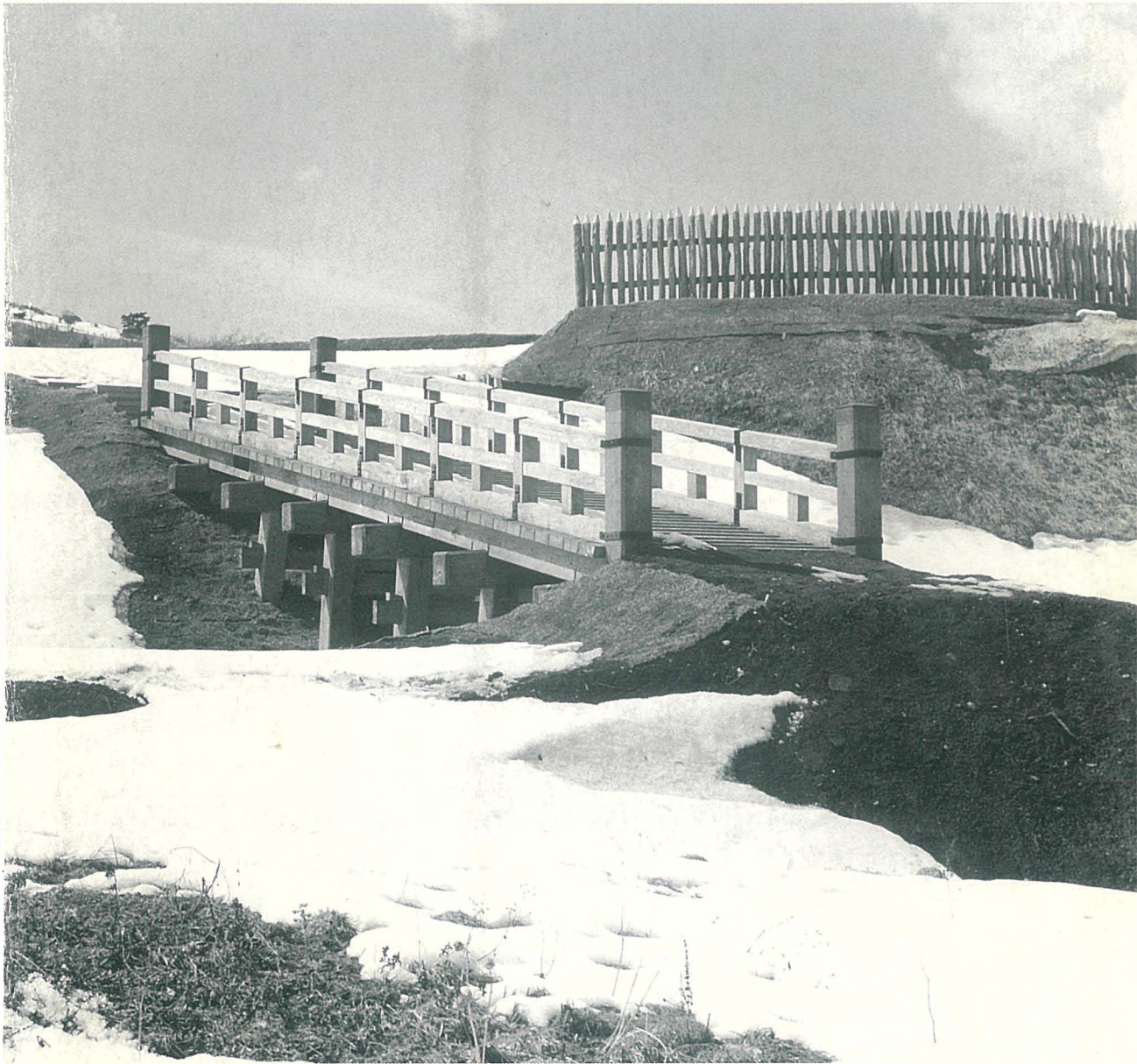


史 跡

上之國勝山館跡 XXIV

—平成14年度発掘調査環境整備事業概報—



2003・3

上ノ国町教育委員会

史 跡

上之國勝山館跡 XXIV

—平成14年度発掘調査環境整備事業概報—

2003・3

上ノ国町教育委員会

序

昭和54年から始まった勝山館跡の環境整備事業は、20年余にわたって継続され、平成12年度からは「史跡等活用特別事業—ふるさと歴史の広場」による整備が行われております。

今年度の事業では館の正面、大手の空壕を渡る橋や柵の復元整備などが行われました。

また、次年度には夷王山の麓に勝山館の概要を展観できる「ガイダンス施設」を設けることとしましたが、その内部には模型を置き、それを見ながら史跡を展望できるような工夫をするとともに、目の前に広がる墳墓群の内部の様子が具体的に見られるような遺構展示も計画しました。

幸いにして建物敷地内に火葬施設や火葬墓、土葬墓など夷王山墳墓群の特徴を示す幾つかの遺構が検出され、型取りをすることができました。計画の具体化が見えてきたように思われるところです。

この間文化庁記念物課や本中主任調査官を初めとする関係機関と諸先生、上ノ国町史跡整備検討委員会や勝山館跡調査研究専門員の各先生など多くの皆様から貴重なご指導、ご助言を頂戴いたしました。深く感謝申し上げますところであります。

小さな町の私たちの微力な積み重ねにご理解を下さる多くの方々のご厚情を励みに、さらに継続して事業の推進に努めてまいりたく存じております。関係の皆様の変わらぬご指導とご叱正を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成15年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀勝

写真図版

- P L . 1 遺構確認調査
- P L . 2 環境整備工事
- P L . 3 調査区全景
- P L . 4 調査区土層推積
- P L . 5 遺構調査状況 1 〈123号墓〉
- P L . 6 遺構調査状況 2 〈131・133号墓〉
- P L . 7 遺構調査状況 3
〈土壙 2・124・134号墓〉
- P L . 8 遺構調査状況 4 〈124・134号墓〉
- P L . 9 遺構調査状況 5 〈126号墓〉
- P L . 10 遺構調査状況 6 〈1号墓〉
- P L . 11 遺構調査状況 7 〈135号墓・土壙他〉
- P L . 12 作業風景
- P L . 13 遺構検出状況
- P L . 14 ガイダンス施設展示型取墓壙他
- P L . 15 環境整備工事 1
- P L . 16 環境整備工事 2

附図 調査区遺構配置図

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

史跡上之國勝山館跡は昭和1977年に国の史跡に指定され、'79年からは環境整備事業を継続してきた。2000年度からは史跡等活用特別事業による整備事業を進めている。この事業の中にガイダンス施設の建設や模型、遺構の製作（露出）・展示などの項目がある。

文化庁記念物課や史跡整備検討委員会の諸先生からご指導を頂戴し、模型を見ながら史跡を展望し、展示遺構を展観して勝山館への導入に繋げるという施設を計画した。

勝山館跡への来訪者は、従来から夷王山直下の駐車場に車を止め、徒歩で背後から勝山館内に入ることが多かった。そこには火葬施設や火葬墓、土葬墓が点在し、その間を縫うように散策路が通っている。それらの典型例の幾つかを発掘して型取りのうえ、その直上に再現したものを施設内に取り込むことが基本となった。

2. 調査位置

駐車場が位置する夷王山墳墓群第Ⅱ地区では、'99、'00年に園路整備に先立つ遺構確認調査を実施した。また'89年には駐車場の舗装工事に先立つ調査を実施していた。これらの調査により、現駐車場と園路の間には火葬施設や墳墓の存在することが想定された。'00年検出の第115号墓の位置を北西端にその南～南東方向でガイダンス施設の対象面積300㎡前後の範囲で遺構の検出を期することとした。また、現駐車場をそのまま利用し、そこから施設へアプローチできることも条件として調査区を設定した。

3. 調査方法

現駐車場をそのままガイダンス施設で利用するという基本方針に基づき、調査区の長軸を現駐車場の北東境界線に平行して設定した。このため'89、'99、'00年の各調査区とは一部重複しながら、軸線は異なる調査区の設定となった（第2図）。墳墓群第Ⅱ地区園路側から南西駐車場方向にA～D、園路沿いに北西から南東に1～6の記号を付した4×4mの調査区24区画を設定した。なお、現駐車場面は盛り土造成されており、園路面とでは3mほどの段差があることから、崩落防止のため駐車場に隣接するD列は壁に傾斜をつけた。このためD列各区の調査対象面積は二分の一以下となった（第3図）。

この調査区内にはⅡ-1、2、5号墓の3基が分布調査時の踏査に基づき表示されていた。火葬

施設や火葬墓にはマウンドが失われ、地表面からは看取出来ないものが多い。土葬墓にも見られるところであり、逆にマウンド状のものが自然地形である場合もあった。

火葬施設や火葬墓は炭化材や人骨、副葬品などをほぼ露出させた状態で調査を止め、型取りなどを行うこととした。マウンドのあるものは、火葬墓も含め可能であればその形状も型どりすることにしたが、墓壇主体部が直下に作られている時は墓壇の再現を優先することとした。従って土葬墓はマウンドの形状と墓壇の掘り方を表示し、棺内の埋葬状況や副葬品を明示できるように調査を進め、型取りをすることとした。

4. 調査経過

5月中旬から遺構確認調査を開始した。

5月中旬～6月上旬：調査区南西界、D・3、4区壁際に'89年度発掘調査区と同年検出の火葬施設の一部を確認した。周辺の盛土層中から現代の茶碗などが出土した。

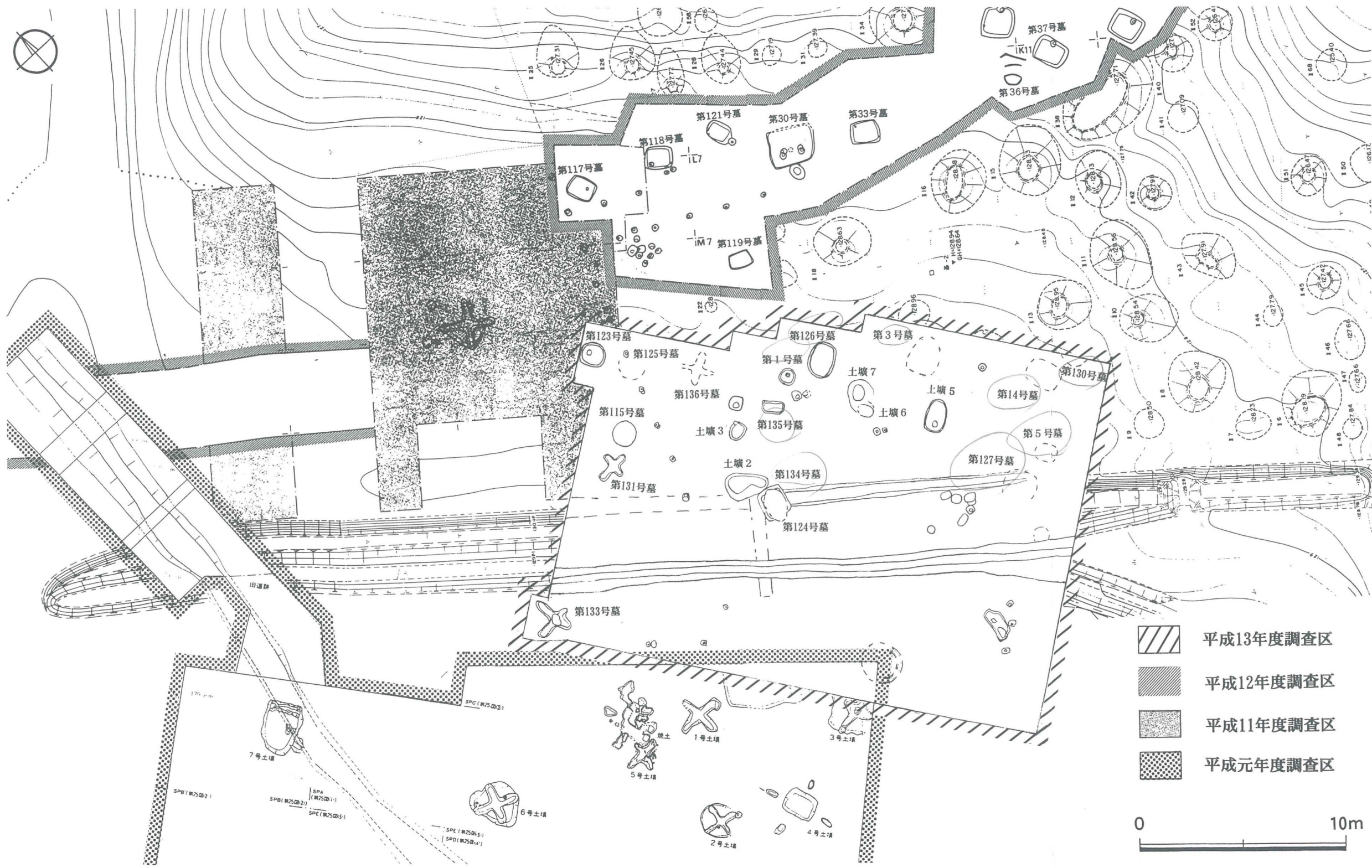
115号墓を挟んで南西に十文字型の土壇を、北東で円形の火葬土壇墓2基、十文字型の土壇を1基検出した。何れも新規の発見である（後に115、123、125、136号墓とした）。Ⅱ-1号墓は標識杭の南西に角釘列が検出されたが墓壇等が不明であった（135号墓とする）。

Ⅱ-2号墓標識杭周辺では墓壇等は検出されなかった。

Ⅱ-5号墓はマウンドの南東端、下部に土壇墓が確認された。調査区中央B・3区で火葬墓を検出したが、土層堆積の観察中、下部に土葬墓が想定された（124、134号墓）。またこの北東A・3区で焼土溜りが検出された。

6月中～下旬：1号墓北西の火葬墓や火葬施設（123、125、136号墓）等は何れもその1部が調査区外に広がっていた。また、1号墓南西の釘列（135号墓）は性格が不明瞭で展示は難しく、2号墓は墳墓とは認められなかったことから、火葬墓群と5号土葬墓の間に空白地帯が生じ、5号墓単独の展示では墳墓群としての纏まりを表示することも不十分と思われた。このため、北及び北東部に調査区を拡張することとした（あ1～6区、第3、4図）。

5号墓北東の14号墓、北の3号墓は土葬墓であることが確認された。5号墓の西と14号墓の東にも土葬墓が確認された（127、130号墓）。Ⅱ-4号墓は柱穴が確認されただけであった。1号墓標



第2図 調査区位置図

識杭の下で人歯が検出され（1号墓）、その東にも土葬墓が検出された（126号墓）。

この結果、調査区の北西部に火葬墓ないし火葬施設、北東部に土葬墓が纏まって検出された。

7月上旬：出来るだけ多様な種類の墓塚を型取りして展示すべきとの文化庁記念物課の指導を受け、北東部の3、5、14、127、130号墓の土葬墓群5基と、北西部の125号火葬墓、火葬施設（136号墓）の2ブロックをその対象とすることにし、型取りに着手するまで形状を保持するため、覆いや、防水対策を講じ調査を中断した。

9月中旬：型取り展示対象以外の遺構の完掘と調査区内を精査、完掘すべく調査を再開した。

10月～11月：3号墓南で検出の土壌5、2号墓標識杭下部で検出の土壌6・7、115号墓西の焼土溜り、土壌3を調査した。また、調査区西角の133号墓を調査した。これは調査開始の初期に黒色土の堆積として確認していたもので、崩落の危険があり最後に調査することにしていたものである。

11月下旬：型取り作業の終了後に埋め戻しを行い、撤収した。

5. 層序

勝山館跡や夷王山墳墓群周辺の基本的な土層の堆積は、I層近現代の堆積層、II層近世・江戸時代の堆積層、III層中世後期、勝山館時代（15・16世紀）整地・堆積層、IV層縄文時代以降～勝山館形成期直前期堆積層、V層ソフトローム、VI層ハ

ードロームとしてきた。II層下部にはKod（1640年駒ヶ岳噴出）白色火山灰が含まれる。IV層は10世紀降下の苦小牧（白頭山）-B-Tm火山灰層（IVb）を間に、その上下a、cの3層に細分し、IVaは擦文期、IVcは縄文期に比定している。

本年度調査区中央を西から東に土塁が通っている。この土塁は周辺を削平した土を積み上げ、さらに両側を溝状に掘り込み、その掘り上土を積み上げ作っている。土塁の南西部には'89年の駐車場造成に伴う発掘調査と造成のための整地盛り土層、'55年頃夷王山祭り協賛の催事場造成整地層などの堆積が見られる。土塁はこれら現代の造成・整地層よりは古い。第3図中では近世としたが幕末ないしは近代初頭とも推測される。

近世の堆積層は、駒ヶ岳火山灰の堆積を目安とした。埋葬後土壌墓の内部が腐朽し落ち込んで、凹地上になったところに堆積する例が多く、遺構検出の目安ともなっている。また、埋葬後にマウンドが築かれるものが多いが、土を掻き揚げた跡が墓塚を取り囲む円形の周溝状の凹地になり、そこに駒ヶ岳火山灰が堆積する例もある。この時、第IV層の苦小牧火山灰と一緒に掻き揚げられ、駒ヶ岳火山灰の外側に残った層が、同心円状に広がる場合もある。

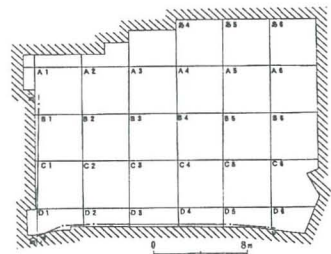
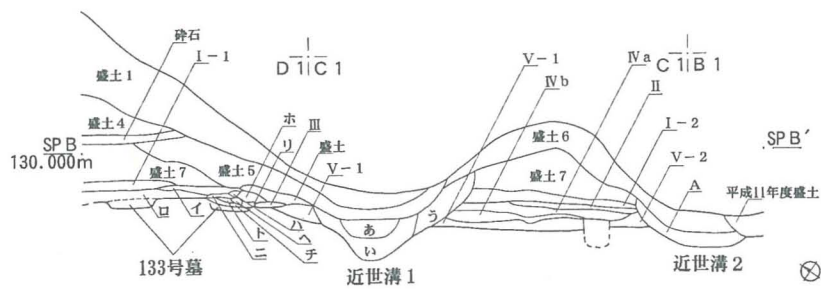
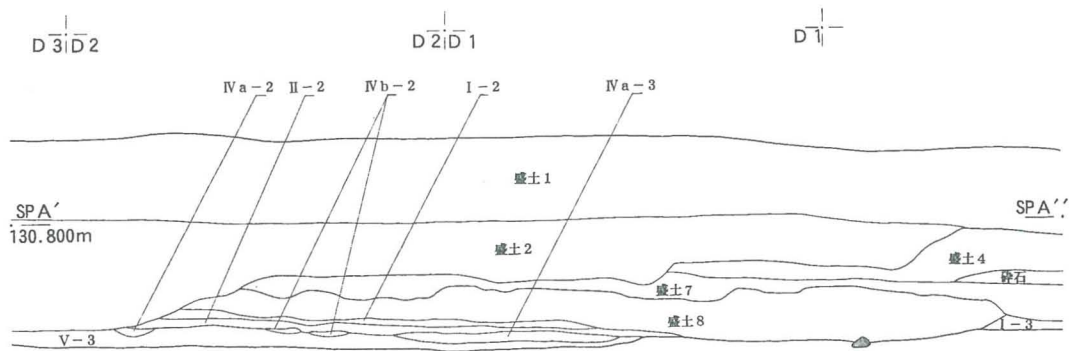
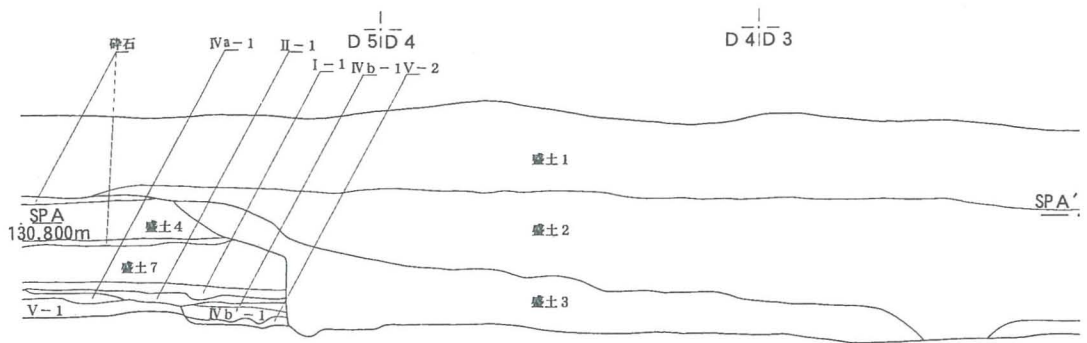
IV層上半からは擦文土器が少量出土した。また縄文土器も出土した。

表1 調査区西壁C・5～1区南北セクション土層観察表（A～A'）

I-1	10YR2/2		粘質土主体		ハード 湿性	
I-2	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土主体	礫粒微量	ややソフト	やや湿性
I-3				注記無し		
II-1	10YR2/2	黒褐色	粘質土主体	Kodブロック状有り	ハード	
II-2	7.5YR2/2	黒褐色	粘質土主体	Kod少量	ややソフト	やや湿性
IVa-1	10YR2/1	黒色	粘質土主体		ソフト	シルト
IVa-2	7.5YR1.7/1	黒色	粘質土主体		ややソフト	やや湿性
IVa-3	7.5YR1.7/1	黒色	黒色土主体		ソフト	シルト
IVb-1	7.5YR3/2-2/2	黒褐色	B-Tm		ソフト	シルト 湿性
IVb-2	7.5YR4/4	褐色	B-Tm主体		ややソフト	シルト 湿性
IVb-1	7.5YR2/2	黒褐色			ソフト	湿性
V-1	7.5YR3/2	黒褐色	ソフトローム主体	混ざり無し	ソフト	湿性
V-2	7.5YR3/2	黒褐色	ソフトローム主体	混ざり無し	ソフト	湿性（V-1）よりやや暗い
V-3	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体	混ざり無し	ソフト	

表2 調査区北壁D1・C1・B1区東西セクション土層観察表（B～B'）

I-1	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土主体	礫粒微量	ややソフト	やや湿性
I-2	7.5YR2/2	黒褐色	ハードローム主体	混ざり無し	ソフト	シルト
II-1	7.5YR2/2	黒褐色	ハードローム主体	混ざり無し Kod多量	ソフト	シルト
III-1	10YR3/3	暗褐色	ローム粒少量	礫粒微量	ややしまり有り	
IVa-1	7.5YR1.7/1	黒色	黒色土主体	ソフトローム	ソフト	炭粒
IVb-1	7.5YR4/4	褐色	B-Tm主体		ソフト	シルト
V-1	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体	礫粒 ソフトローム	ややソフト	
V-2	7.5YR4/4	褐色	粘質土主体	ソフトローム	ややハード	やや密
133号墓	イ	7.5YR2/2	黒褐色土主体		ソフト	炭やや多量
	ロ	10YR2/3	K-odやや多い		やや密	炭粒微量
	ハ	10YR2/3	ローム粒微量	K-od微量		
	ニ	10YR2/3	黒色土混じり		ソフト	焼土粒微量
	ホ	10YR2/3	ローム粒微量	K-odやや多い		
	ヘ	10YR2/3	黒色土混じり	K-od少量		焼土粒微量
	ト	10YR2/3	黒色土混じり	K-od（ハ）より少し多い		焼土粒微量
	チ	10YR2/1	ローム粒少量	K-od少量		焼土粒少量 炭少量
	リ	10YR2/2	ローム粒少量	骨少量		炭少量 焼土粒少量



第3図 土層堆積図

II 検出遺構

1. 中世墓

調査区内から火葬墓(115、123~125号墓)・火葬施設(131、133、136号墓)が計7基、土葬墓(1、3、5、14、126、127、130、134、135号墓)が9基検出された。'83~'85年に実施した表面踏査による分布調査により、1~5、14号墓の6基が標識杭で表示されていた。調査の結果2、4号墓は墓ではなかったが、他は新発見である。また115号墓は'00年に調査済のものである。

3・5・14・125・127・130・136号の7基の各墓は、ガイダンス施設内に展示するための型取り作業を行ったので完掘していない。今年度はこれ以外の完掘済みの遺構を中心に概要を述べ、次年度に改めて全体を記述することにする(第4図)。なお、各墓壙出土の遺物は平面図等と併載するよう努めたが、第18、19図にも実測図等を掲載した。またそれぞれの遺物一覧、同釘計測値一覧、出土銅銭名一覧を表13、14、22に示した。

第123号墓(第5図)：調査区北角で検出した。前面に炭化物の混じった黒色土が分布している。炭化物は木片の碎片化したものが多い。加工材が大部分だが自然木もある。禾本科植物なども焚付材であろうか。数珠玉や銅銭が堆積層の比較的上部に見られ、土壌内の礫にも被熱したものがあるが、土壌の壁や床面の熱変は明らかでない。土層の堆積は面的な広がりを想定させるものであり、二次堆積の可能性は低いようである。

浅い土壌を掘り、それに燃料の木材を架け渡しして組み上げ、棺を乗せ茶毘に付したと思われる。拾(集)骨の有無は明らかでない。土層の堆積に乱れが少ないのは、そのまま埋葬したことを示すようであるが焼骨が少なく断定できない。永楽通宝などの銅銭11枚と碎片約40点(第19図)が出土した。内無文銭が4枚ある。炭化した種子製の数珠玉が53点あった。ムクロジか。母珠が1、小珠が5点あった。また半欠品が13点あった(第18図)。漆器の皮膜碎片がある。炭化米、やまぶどうの種なども出土している。米は被熱で発泡したものもある。焼骨5.4gはサンプル採集土洗浄により検出されたものである。直接焼骨として取り上げたものは含まれていない。釘は2寸弱のものが2点、他に欠損品が64点出土している(第18

図)。壙底に浅い柱穴状のピットがあった。上部の遺物や土層に乱れはなく後出のものではない。ピット内から検出された遺物等はない。やまぶどうの種が出来るのは10月以降、熟すのは11月以降である。火葬時期の目安には出来そうである。

第131号墓(第6・7図)：調査区北西部B・1区で検出した。1×1.5mほどの範囲に炭化物の混じった黒色土が分布していた。その下位で東西に長軸を持つ十文字型の浅い掘り込みが検出された。南北方向の掘り込みは130×35cm、東西は165×35cmほどで深さは5~10cmほどである。壙底は東西南北ともにほぼ水平で、北及西に若干傾斜している。南北方向掘り込みの中央西壁に小柱穴がある。銅銭、釘、炭(炭化物)などが出土している。サンプル土の洗浄で、焼骨小片26g余を得た。検出された元豊通宝などの銅銭10枚余は副葬品であろう(第19図)。釘は完品11点など89点が出土した。1.8~2.3寸のものが使われている(第18図、表14)。炭化物(材)や遺物は東半交差部周辺に集中する。十文字に交差する中央付近の上部で茶毘に付され、そのまま埋葬されたものと推測される。小柱穴は上部を支える杭の一部であろうか。

第133号墓(第6・8図)：調査区西角D・1区で不整形円形に黒色土の堆積が見られ、その下位を精査して検出した。東西、南北に長軸を持つ浅い掘り込みが十文字型に交差した平面形を呈している。南北方向の掘り込みは195×45cm、東西方向は185×25~40cmほどで、やや南東部に寄ったところで交差している。掘り込みの深さは10cmほどで、底面はほぼ直線状を呈して交差部方向に幾分傾斜し、交差部が一段低くなり、径50、深さ5cmほどの円形の凹みを呈する。無文銭など銅銭4枚が出土した。また、炭化米、不明種子、58g余の焼骨がサンプル土の洗浄で抽出されている。釘は59点出土している。完品が2点あり、大きさは2、2.2寸である。交差部中央~西に炭化物や遺物が纏まっている。炭化物は種子の他に加工材と自然木、禾本科植物の茎がある。自然木には柴の類があり、禾本科植物とともに焚付用と推される。南北方向掘り込みの、北半中央よりに小柱穴を検出した。交差部付近で茶毘に付されたと推測される。小柱穴は火葬時に上部を支えた杭跡の一部で

あろうか。火葬後の拾（集）骨については不明である。交差部南西に径30cmの焼土溜がある。

第124、134号墓（第9～11図）：調査区中央B・3、C・3区に'83年度設定の試掘溝（トレンチ）がある。このトレンチの北東部に暗褐色土が堆積し、南東側に白色火山灰が円形に堆積していた。北西部はトレンチで削られ、一部欠失していた。白色火山灰の下位には暗～黒褐色土が堆積しており、炭粒や焼土粒、骨粉などが含まれていた。堆積の長軸にあわせ、土層観察面を設定し、掘り下げを行ったところ、その下半にロームブロックを多く含み、堅い暗褐色土層と柔らかな黒褐色土層の堆積があり、土葬墓の存在が推測された。第9・10図平面にピット状に表示した凹みは下部の土壌墓覆土の落ち込みに伴うもので、遺構ではないと解される。

第124号墓（第10図）：南北に長い楕円状に炭化物などを含む土層の堆積が想定された。墓壇の形状や底面は下部に土壌があるためか明瞭に捉え得なかった。副葬品は銅銭が洪武通宝、朝鮮通宝など10枚である（第19図）。釘が30点出土した。完品2点の長さは1.6、1.8寸である（第11図下）。サンプル土中から18g余の焼骨細片を抽出した。炭化物は加工材と禾本科植物の茎である。焚付材でもあろうか。下部の墓壇の凹みを利用して火葬し、そのまま埋葬したものであろう。拾（集）骨、再葬は不明である。

第134号墓（第11図）：第124号墓の下位に位置する。墓壇の大きさは153×130cm、深さ50cmほどである。覆土および釘の位置から棺の大きさは75×65cmと推定した。長軸は共に南北方向である。墓壇底壁際からも釘が出土している。また、墓壇南辺覆土上部から銅銭（大観通宝）が出土している（第19図）。

第126号墓（第12、13図）：調査区北東辺、拡張調査区あ・3区で北東～南西に長軸を持つ165×125cm、深さ48cmの土壌が検出された。この北東半から木質の付着した釘が出土し、その位置から南北に長軸を持つ125×60cmの棺が想定された。現存する釘の位置が示す、その高さは47cmである。Ⅲ層上面から掘り込まれており、棺を納めた後に掘上土で覆い、掘上土中に含まれていた礫をその上部に置いているようである。礫は棺の北側上部に多いようである。構築直後はマウンド状を呈し

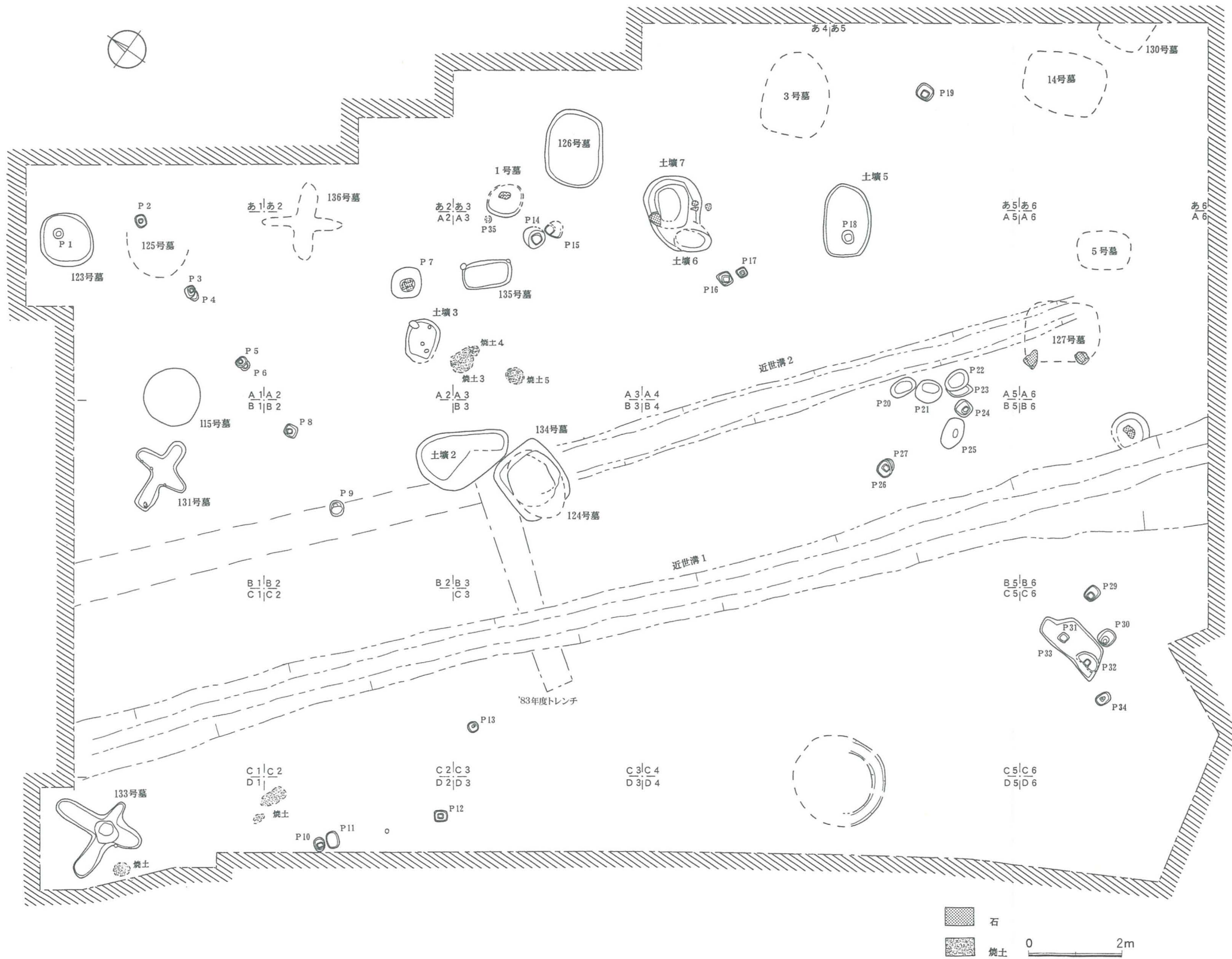
ていたと思われる。

棺内からは開元通宝など、銅銭7枚が出土した。北東隅壇底から4枚纏まって出土した（第19図）。その下位に繊維状のものが残存していたが、棺の底板か頭陀袋などの一部は明らかでない。釘には厚さ2～2.3cmほどの板材が残るものもあり、棺を釘留めしていることが分かる。釘の寸法は木質が錆着し、計測できないものもある。

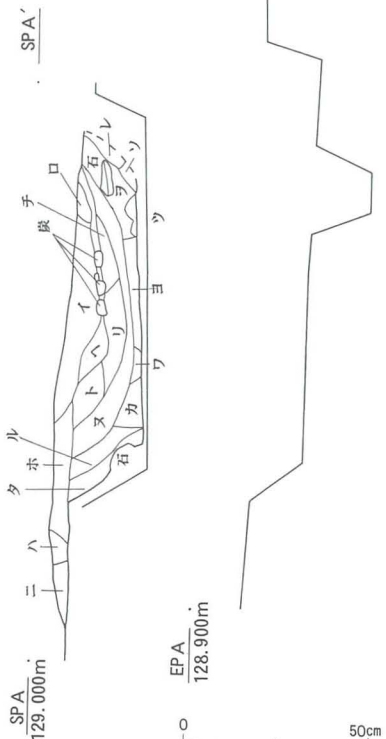
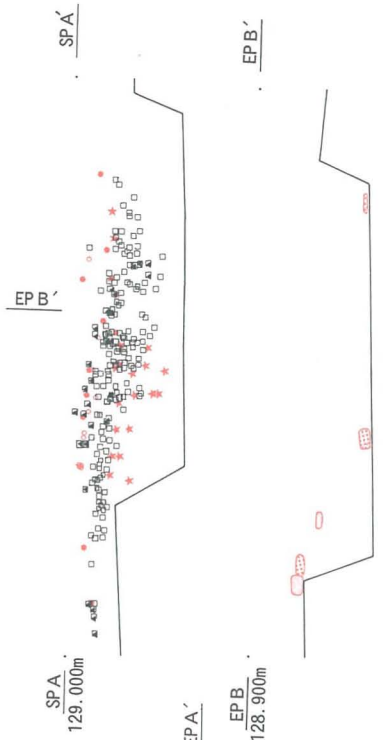
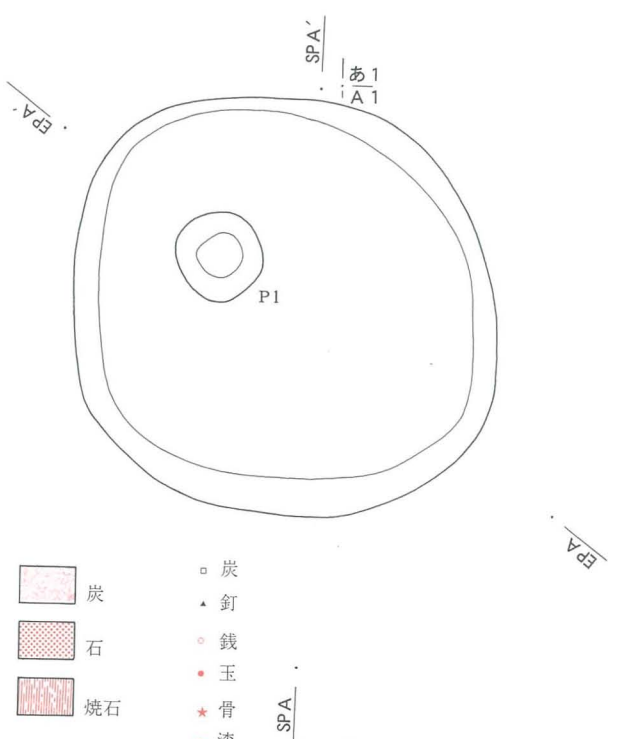
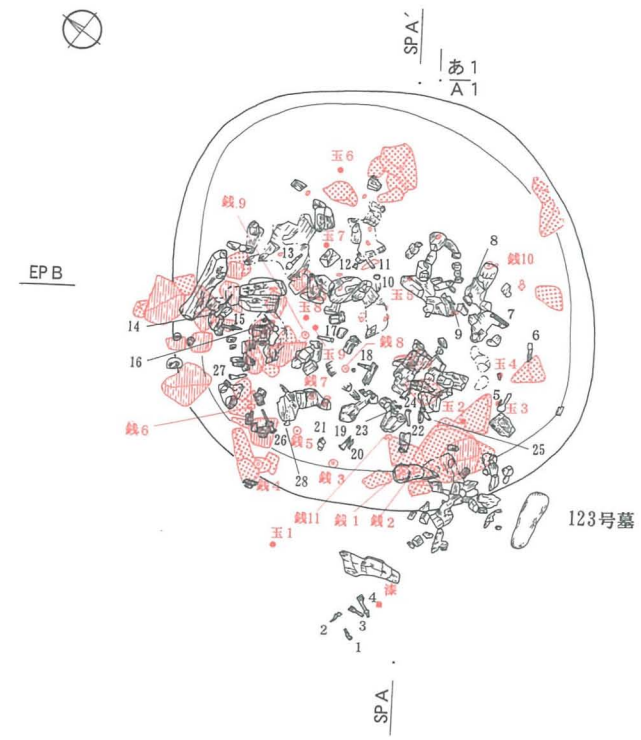
第1号墓（第14図）：調査区北東部、A、あ・3区で検出した。Ⅱ-1号墓表示杭の周辺で礫の集積、駒ヶ岳火山灰の分布が見られ、墳墓の存在が想定された。表示杭は当初調査区の北東界に位置していた（PL. 10-1、2）。その南東部で釘列が検出され、それが1号墓に比定されたが、（調査終盤135号墓とした）、調査区界東壁の土層観察で墓壇上の落ち込みが見られ、確認のため調査区を拡張した。

平面調査では覆土の識別が出来ず、幾つかの土層観察断面（トレンチ）を設定し、遺構の確認をしたが捉え切れなかった。人歯列が見つかり、墓壇範囲の再確認を試みたが、トレンチ部分は想定とせざるを得なかった。土層図中、マウンド、イとしたものはマウンド封土の掻き揚げで出来た周縁の凹みに堆積したⅡ層とすべきものかもしれない。また、土壌覆土には中央部1、4、5、7などの柔らかな部分と壁際のロームブロックなどを主体とする堅い土層の堆積が見られ、棺（土壌主体部）内外の覆土の違いを思わせるが、セクション位置が遺構の端によっていること、平面的に掘りきれなかったこと、釘などが出土していないことなどがあり、プランそのものも含め確定出来ないところである。

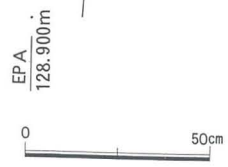
第135号墓（第15図）：調査区北東部A・3区で検出した。表土を除去し、Ⅳ層上面を精査中、長方形に焼土粒、炭粒などの混じる範囲があり、釘列が検出された。遺構プランの確認に努めたが、平面、断面ともに明瞭な掘り込みを捉えることは出来なかった。通常の土壌墓では、棺の止め釘は四隅周辺に多く集中しており、本例のように十数本ずつがほぼ2列に平行する例はない。副葬品などもなく、棺や骨箱を納めた墓とは断定できないものであるが、墓番号は付すことにした。何れにしても上部は削平されていると思われる。

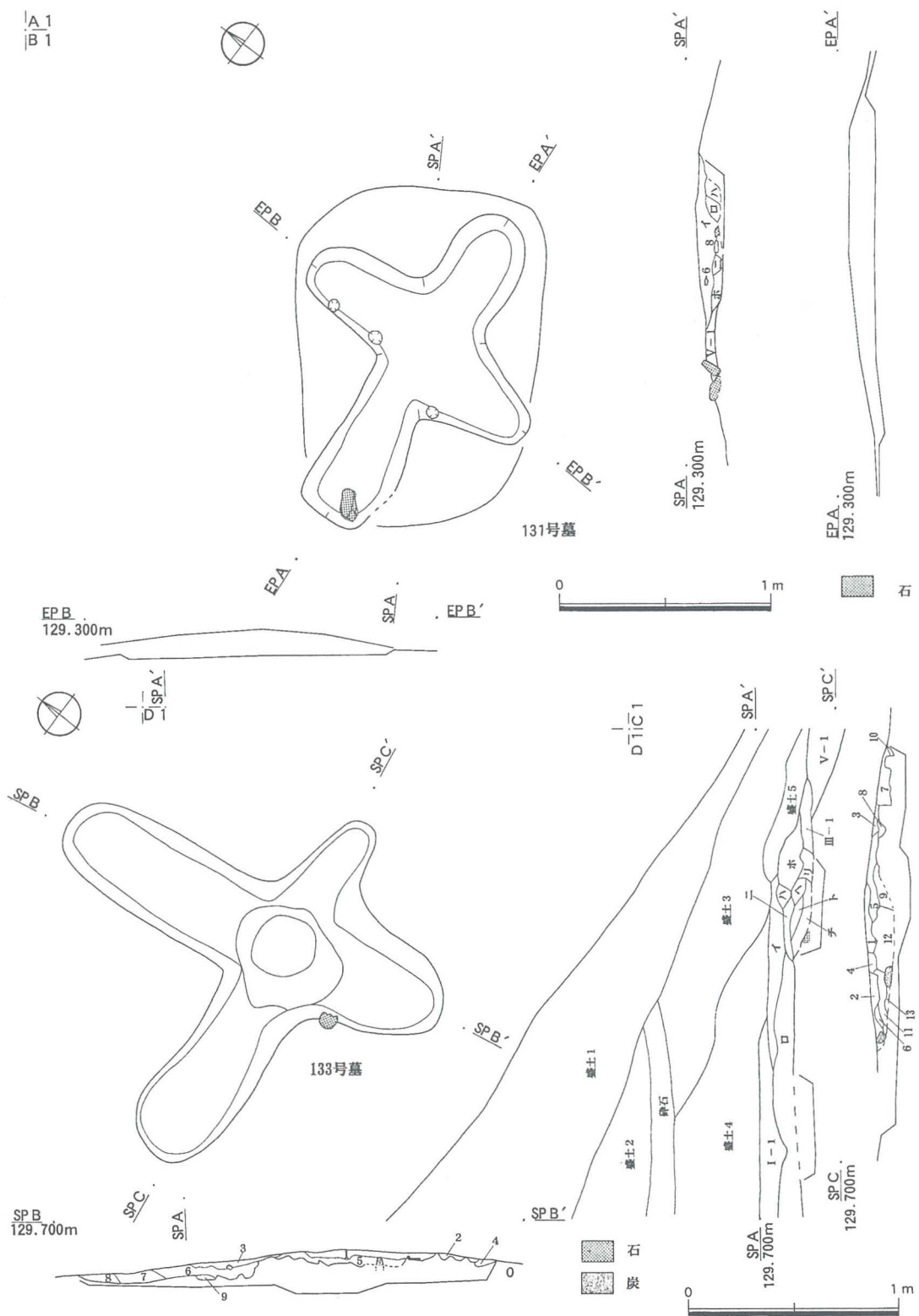


第4図 調査区遺構配置図



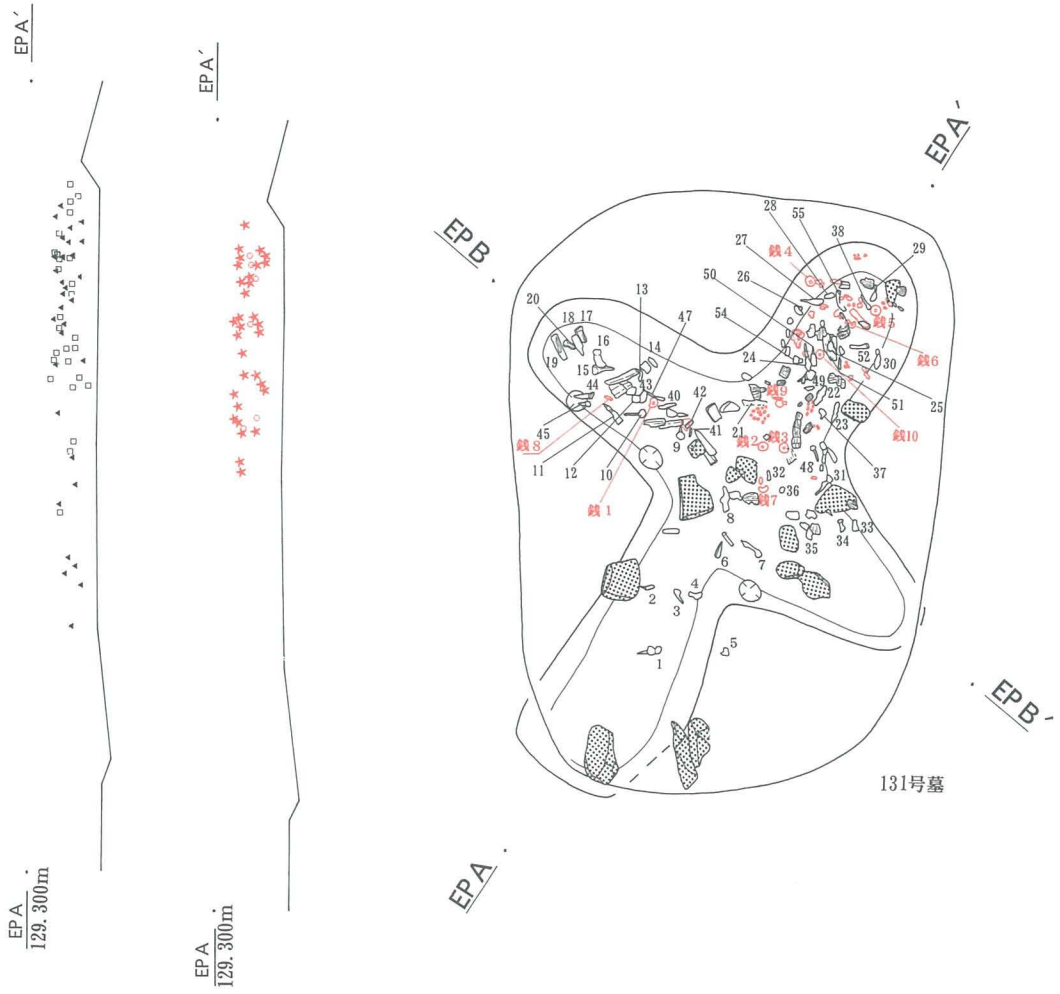
第5図 第123号墓 平面図他





第6图 第131号墓(上)、133号墓(下)平面图他

A 1
B 1

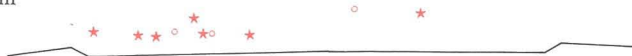


EP B
129.300m



EP B'

EP B
129.300m



EP B'

炭化物範圍

石

釘

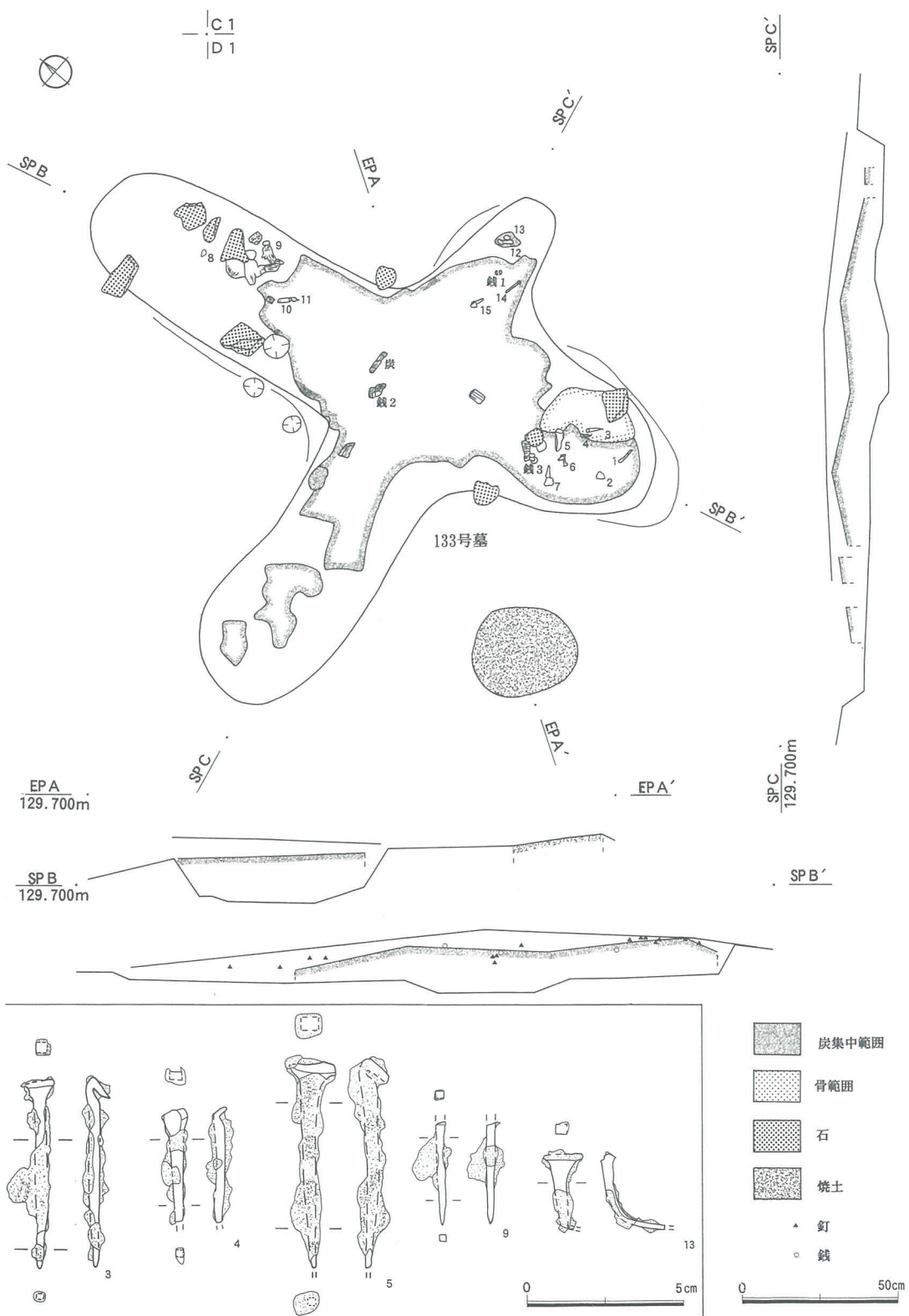
炭

骨

錢

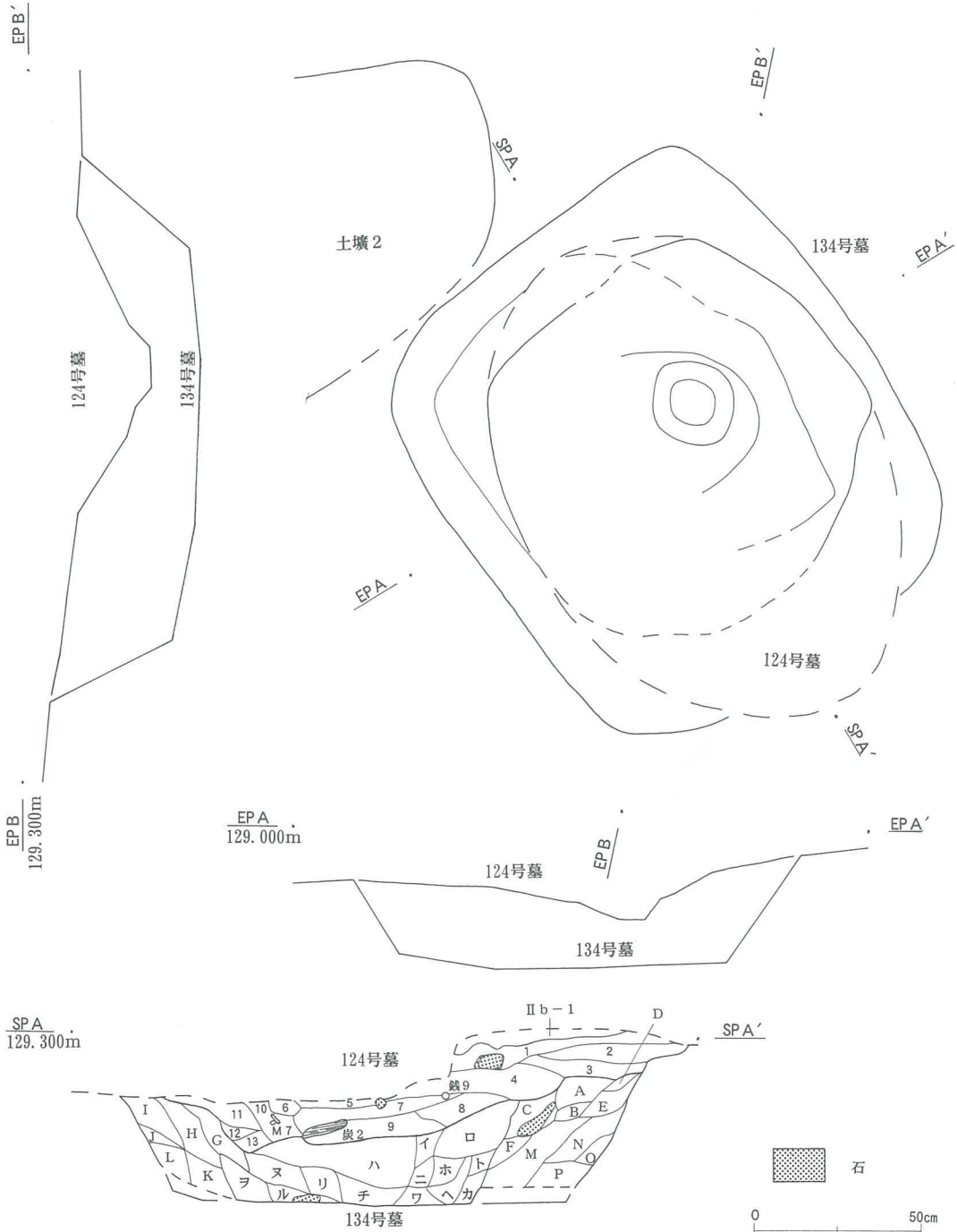
0 50cm

第7図 第131号墓 出土遺物分布図

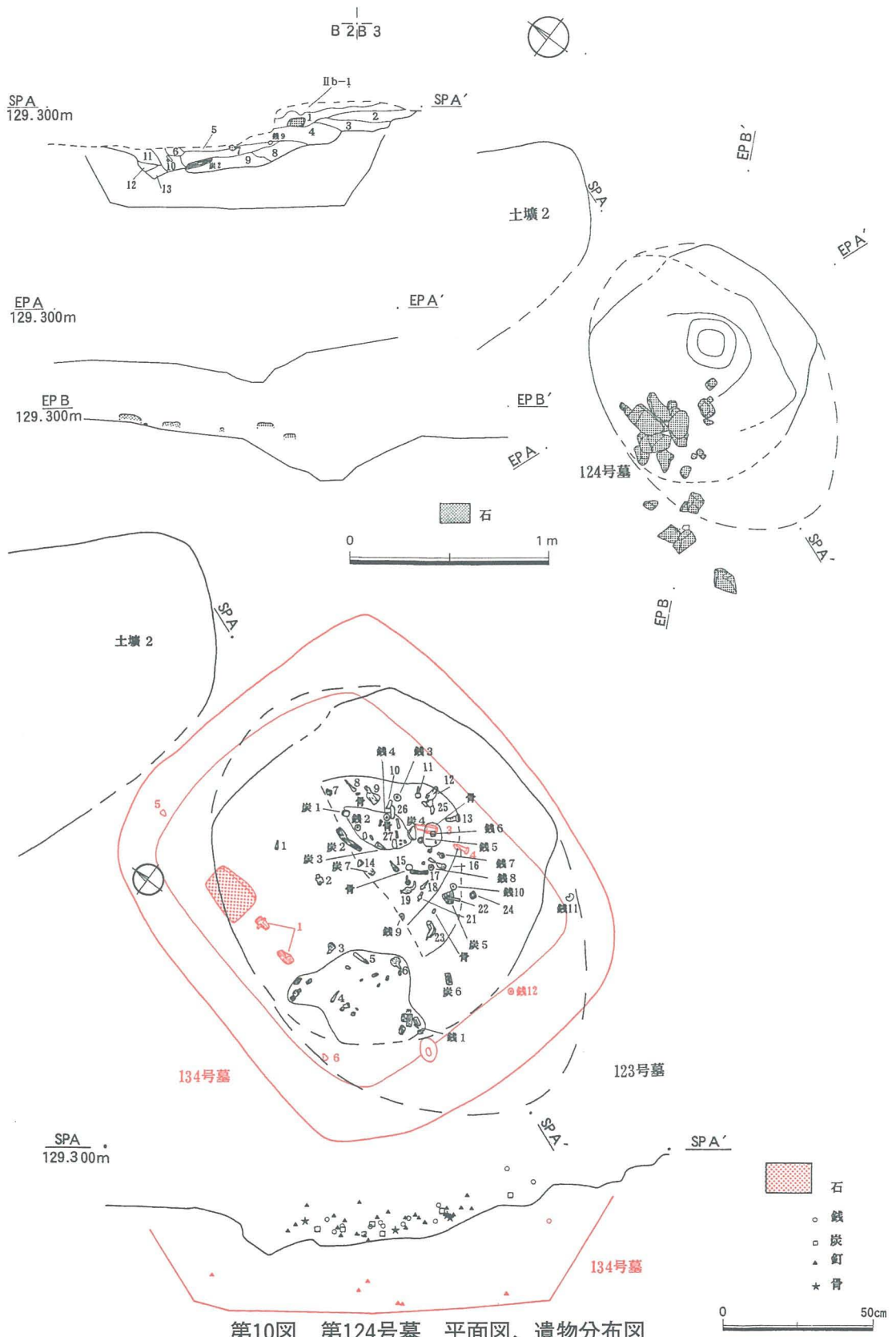


第 8 图 第133号墓 遺物分布图

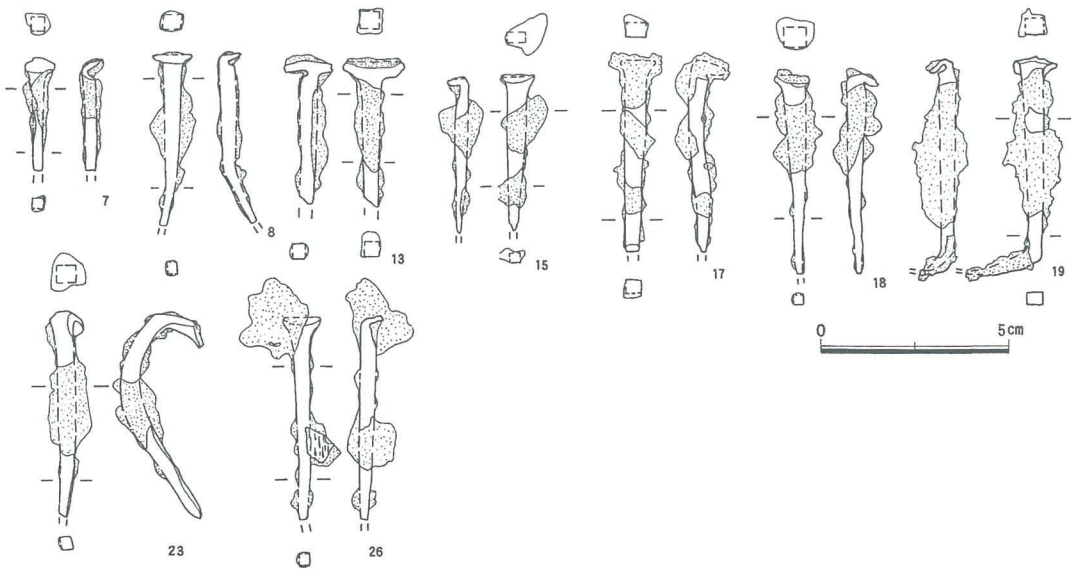
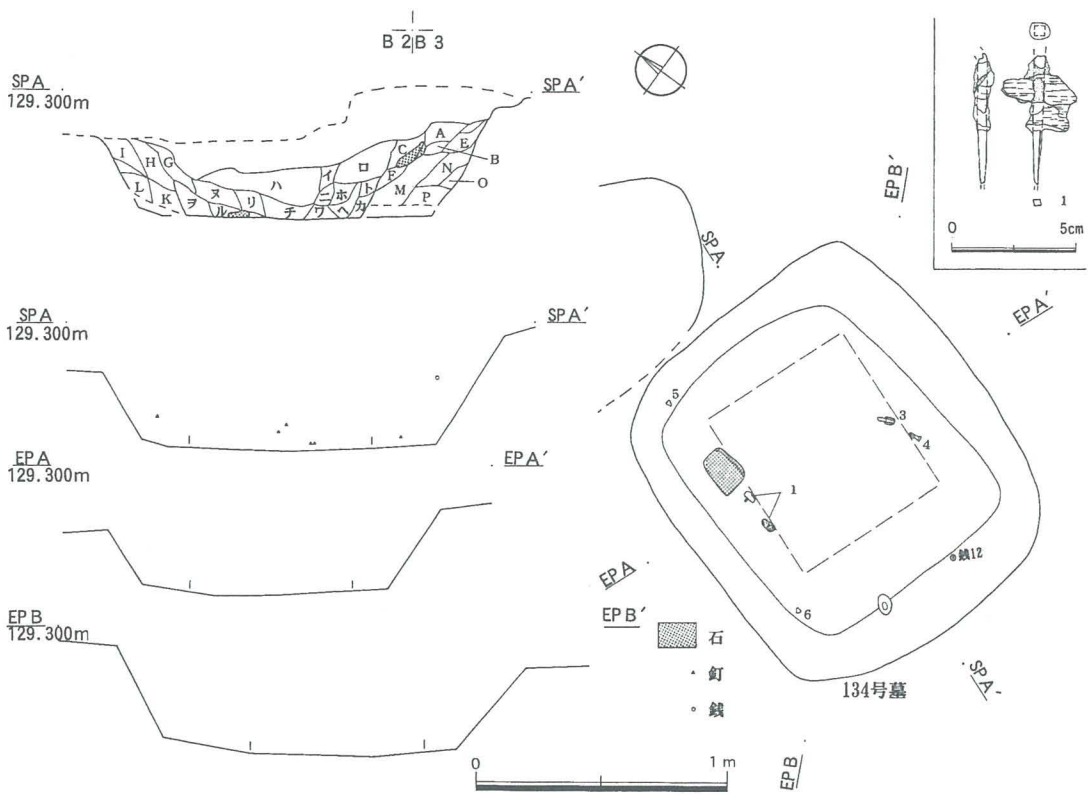
B 2 | B 3



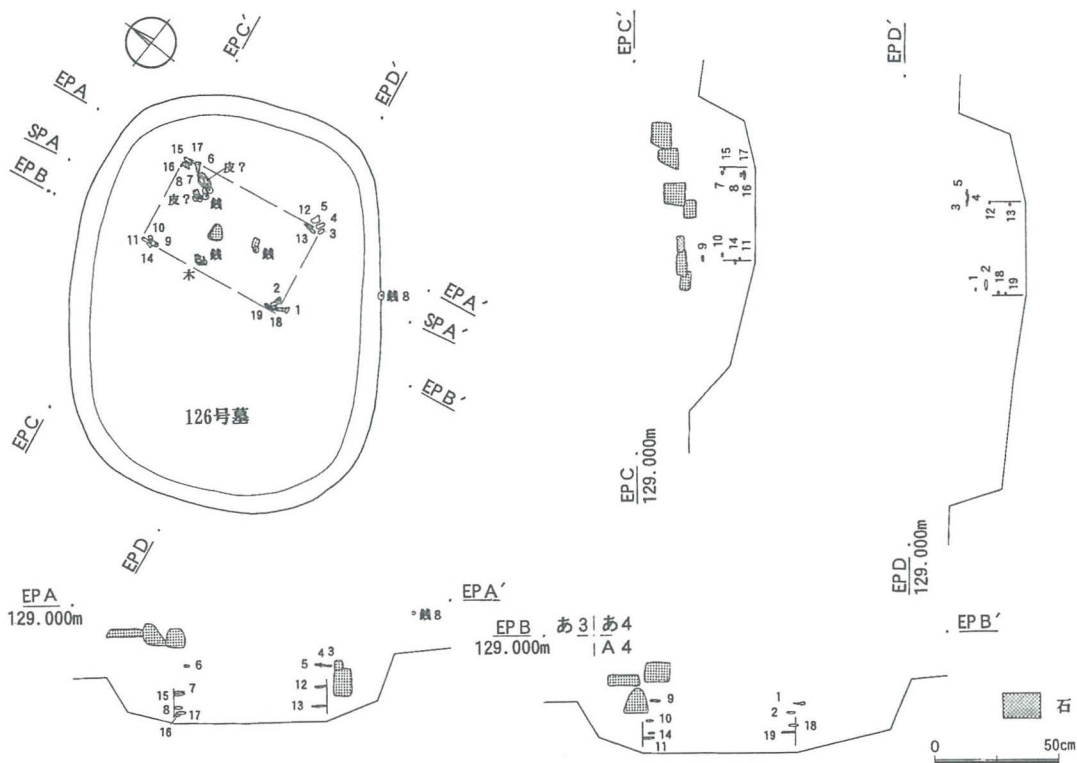
第9図 第124・134号墓 土壌 2 位置関係図



第10图 第124号墓 平面图、遺物分布图



第11図 第134号墓平面図、遺物分布図、第124(下)、134号(上)墓出土遺物



第12図 第126号墓 平面図他

表3 第123号墓土層観察表

123号墓	イ	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体		ソフト 密	炭粒 焼土粒微量
	ロ	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体	ローム粒微量	ソフト	焼土粒微量
	ハ	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体	ローム粒	ソフト	
	ニ	7.5YR2/3	極暗褐色	黒褐色土主体	ローム粒 火山灰微量	ややソフト 密	炭粒
	ホ	7.5YR2/2	黒褐色	炭化物主体	全面炭粒	ソフト	焼土粒微量
	ヘ	7.5YR2/1	黒色	黒褐色土主体	全面炭粒	ソフト	
	ト	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体	ローム粒	ソフト	炭粒
	チ	7.5YR1.7/1	黒色	炭化物主体		ソフト	
	リ	7.5YR2/1	黒色	黒褐色土主体	全面炭粒	ソフト	(へ)よりしまり無し
	ヌ			全面炭層			
	ル	10YR2/3	黒褐色				炭少量
	ヲ	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム			炭少量
	ワ	10YR3/4	暗褐色				炭微量
	カ	10YR3/4	暗褐色				(ワ)より炭少し多い
	コ	10YR3/4	暗褐色	ローム粒微量			炭少量
	ヨ	10YR3/4	暗褐色				炭微量
	タ	10YR3/3	暗褐色				
	レ	10YR3/4	暗褐色	ローム粒微量		(ル)より少しザラザラしている	
	ソ	10YR3/4	暗褐色	ローム粒 (レ) よりローム粒少し多い		ソフト	
	ツ	10YR4/4	褐色	ローム粒微量			

表4 第131号墓土層観察表

131号墓	V-1	10YR3/3	暗褐色	褐主体	ソフトローム	ややハード	
	イ	10YR2/3	黒褐色	黒褐主体	ローム粒	ややソフト	炭粒
	ロ	10YR2/3	黒褐色	黒褐主体	B-Tm 骨少量	ソフト (イ)より少し明るい	
	ハ	10YR2/2	黒褐色	黒褐主体	B-Tm	ソフト	
	ニ	10YR2/2	黒褐色	黒褐主体	B-Tm	ソフト	
	ホ	10YR2/3	黒褐色	黒褐主体	ローム粒	ソフト	炭粒

表5 第133号墓土層観察表(A~A')

	I-1	7.5YR2/2	黒褐色	ハードローム主体	混ざり無し	ソフト シルト	
	III-1	10YR2/3・3/3	黒褐・暗褐色	ローム粒少量	礫粒微量	ややしまり有り	
	V-1	10YR4/3	鈍い黄褐色				
	イ	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体		ソフト	炭やや多量
	ロ	10YR2/3	黒褐色	K-odやや多い		やや密	炭粒微量
	ハ	10YR2/3	黒褐色	ローム粒微量	K-od微量		
	ニ	10YR2/3	黒褐色	黒色土混じり		ソフト	焼土粒微量
	ホ	10YR2/3	黒褐色	ローム粒微量	K-odやや多い		
	ヘ	10YR2/3	黒褐色	黒色土混じり	K-od少量		焼土粒微量
	ト	10YR2/3	黒褐色	黒色土混じり	K-od (ハ) より少し多い		
	チ	10YR2/1	黒色	ローム粒少量	K-od少量 骨少量		焼土粒少量 炭少量
	リ	10YR2/2	黒褐色	ローム粒少量	骨少量		炭少量 焼土粒少量

表6 第133号墓土層観察表2(B~B')

133号墓	1	10YR3/1・2/1	黒褐・黒色	灰混じり		ソフト	
	2	10YR2/2	黒褐色	炭混じり		ソフト	
	3	10YR2/2	黒褐色	炭混じり	B-Tm少量 骨微量 (5)より少し		
	4	10YR3/3	暗褐色			やや粘り有り	炭少量
	5	10YR2/1・1.7/1	黒色	炭混じり	骨微量		
	6	10YR1.7/1	黒色	炭混じり	灰混じり B-Tm少量	やや密	
	7	10YR2/2	黒褐色	ローム粒微量			炭微量
	8	10YR2/3	黒褐色	ローム粒 (7)より少し多い			炭微量
	9	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量			炭少量 焼土粒微量

表7 第133号墓土層観察表3(C~C')

133号墓	1	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量	炭混じり		
	2	10YR2/3	黒褐色	Ko-d少量	炭混じり		
	3	10YR2/2	黒褐色	炭混じり			灰少量
	4	10YR2/1	黒色	炭混じり		ソフト	
	5	10YR3/1・2/1	黒褐・黒色	灰混じり		ソフト	
	6	10YR1.7/1	黒色				炭
	7	10YR1.7/1	黒色			ソフト	灰多い
	8	10YR1.7/1	黒色			ソフト	炭多い
	9	10YR1.7/1	黒色	炭混じり		ソフト	炭多い
	10	10YR3/2	黒褐色			少し粘り有り	炭少量
	11	10YR3/3	暗褐色				炭少量
	12	10YR1.7/1	黒色				炭多量
	13	10YR3/3	暗褐色				炭少量

表8 第124号墓・134号墓土層観察表

	II b-1					Ko-d	
124号墓	1	10YR3/4	暗褐色	Ko-d		ハード	焼土粒微量
	2	10YR3/4	暗褐色			ハード	炭粒極少量 焼土粒
	3	10YR3/4	暗褐色			ハード	炭粒5% 焼土粒
	4	10YR2/3	黒褐色			ハード	炭粒10% 焼土粒
	5	10YR2/3	黒褐色	火山灰		ハード	焼土粒極少量
	6	10YR2/3	黒褐色	火山灰25%		ハード	焼土粒微量
	7	7.5YR3/2	暗褐色			ソフト	炭粒少量 焼土粒30%
	8	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック30%	骨粉微量	ボソボソ	炭粒
	9	10YR2/3	黒褐色	ローム粒		ややソフト	炭粒5% 焼土粒 炭11cm大
	10	10YR2/2	黒褐色	ローム粒微量		ややハード	焼土粒 釘含む
	11	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック20%		ハード	焼土粒
	12	10YR2/3	黒褐色	ローム粒		ややハード	炭粒少量
	13	10YR3/2	黒褐色	ローム粒少量		ややハード	炭粒微量
134号墓							
掘り方	A	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック20%		ハード	炭粒微量
	B	10YR2/3	黒褐色	ローム粒微量		ソフト	
	C	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック15%	ローム粒微量	ややハード	
	D	10YR4/3	鈍い黄褐色	ローム粒		ハード	
	E	10YR4/3	鈍い黄褐色	ロームブロック50%	ローム粒	ややハード	
	F	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック40%		ややハード	
	G	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック20%	ローム粒微量	ややハード	
	H	10YR4/3	鈍い黄褐色	ロームブロック50%		ハード	
	I	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック40%		ややハード	
	J	10YR4/3	鈍い黄褐色	ロームブロック	礫粒	ややしまり有り	炭粒少量
	K	10YR4/4	褐色	ロームブロック多い	基盤礫少量		焼土粒微量
	L	10YR4/3	鈍い黄褐色	ロームブロック	礫粒 (J)よりローム多い		炭粒少量
	M	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック	礫粒 基盤礫	ハード	焼土粒 炭粒少量
	N	10YR4/4・4/6	褐色	ロームブロック多い	基盤礫 礫粒少量	粘土質	
	O	10YR4/4	褐色	ロームブロック	基盤礫	粘土質	
	P	10YR4/6	褐色	ロームブロック多い		粘土質	炭粒少量
							ベタベタしている
植想定部	イ	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック少量	ローム粒	ソフト	炭粒微量
	ロ	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック15%	ローム粒微量	ややソフト	
	ハ	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック15%	ローム粒	ややソフト	炭粒微量
	ニ	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック10%	ローム粒微量	ややハード	

ホ	10YR2/2	黒褐色	ロームブロック	ローム粒微量	ややソフト	粘性	
ヘ	10YR2/2	黒褐色	ローム粒微量		ソフト	粘性	
ト	10YR3/3	暗褐色	ロームブロック	ローム粒少量	ややハード		
チ	10YR2/3	黒褐色	ローム粒	ロームブロック少量	ややソフト		焼土粒少量
リ	10YR4/4	褐色	全面ローム		ハード		
ヌ	10YR2/3	黒褐色	ローム粒微量		ソフト		
ル	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック50%		ややハード		
ヲ	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック40%		ややソフト		
ワ	10YR2/3	黒褐色	ロームブロックやや多い	(チ)より少しロームブロック多い			焼土粒
カ	10YR2/3	黒褐色	ローム粒多い		ソフト		焼土粒少量

表9 第126号墓土層観察表(A~A')

箱内	イ	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	ローム粒少量	ややソフト	焼土粒少量	炭微量	
	ロ	10YR4/4	褐色	ローム粒多い			炭少量		
	ハ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	ローム粒多い	B-Tm少量	(イ)より少し粘り有り	焼土粒少量	炭微量
	ニ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	ローム粒多い			焼土粒少量	炭微量
	ホ	10YR3/2	黒褐色	礫粒微量			ソフト	焼土粒微量	炭微量
	ヘ	10YR2/3	黒褐色	礫粒			やや粘質土	焼土粒微量	炭微量
	ト	10YR2/2	黒褐色	礫粒	ローム粒少量		ややソフト	焼土粒	炭微量
	チ	10YR2/2	黒褐色	礫粒	ソフトローム少量		(ト)よりソフト	焼土粒微量	炭微量
	リ	10YR2/2	黒褐色	礫粒少量	ローム粒少量		ソフト	焼土粒微量	炭微量
箱外	1	10YR3/2	黒褐色	ローム粒やや多い			やや粘り有り	炭少量	
	2	10YR3/2	黒褐色	ローム粒少量			ややソフト	炭微量	
	3	10YR4/4	褐色	ローム粒多い			(1)より粘土質	炭少量	
	4	10YR2/2	黒褐色	ローム粒少量			やや粘り有り	炭微量	

表10 第126号墓土層観察表(B~B')

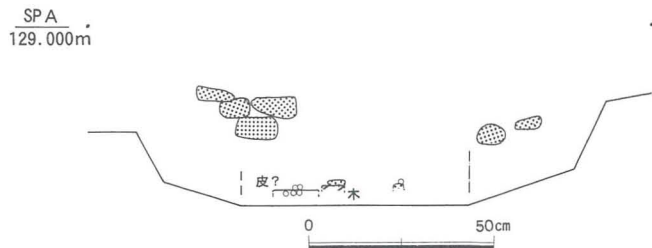
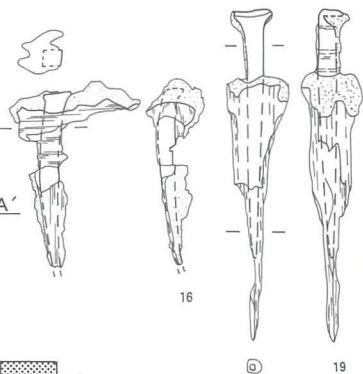
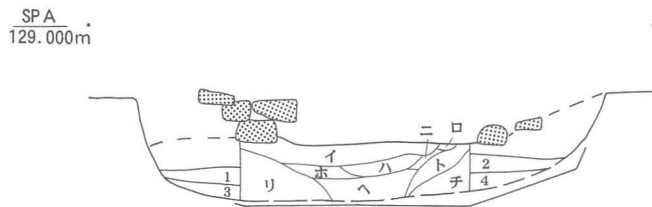
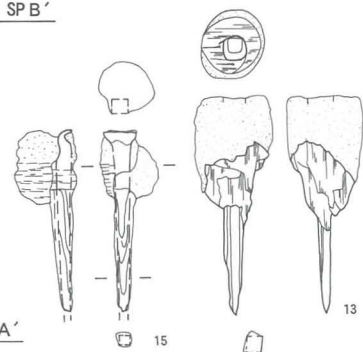
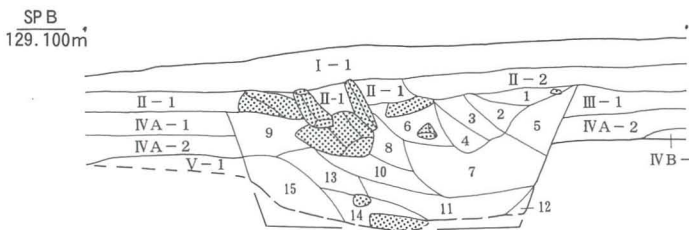
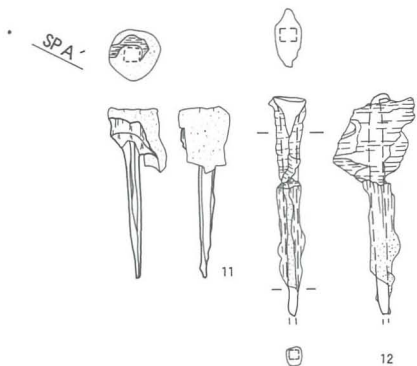
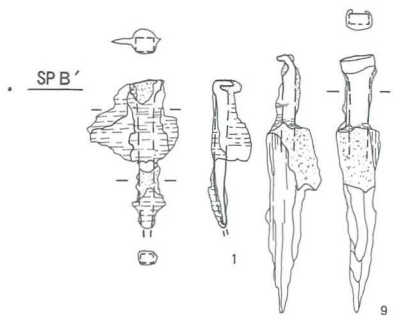
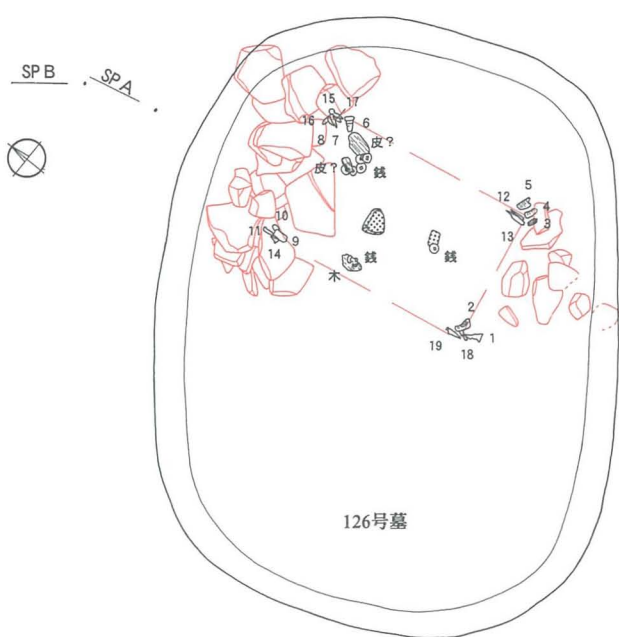
	I-1	10YR2/3	黒褐色	草根				
	II-1	10YR2/3	黒褐色	礫粒微量				
	II-2	10YR2/3・3/3	黒褐・暗褐色	礫粒微量			(II-1)より少し明るい	
	II-3	10YR2/3	黒褐色	礫粒微量	ローム粒微量	Ko-d少量		
	III-1	10YR2/3・3/3	黒褐・暗褐色	礫粒微量	Ko-d少量			
	IVa-1	10YR2/3	黒褐色	礫粒微量	ローム粒微量			
	IVa-2	10YR1.7/1	黒色				ソフト	
	IVb-1	10YR1.7/1	黒色					
	V-1	10YR3/3	暗褐色	B-Tm多い				
126号墓	1	10YR2/3	黒褐色	ローム粒微量				
	2	10YR2/3	黒褐色	(1)よりローム粒少し多い				炭微量
	3	10YR3/4	暗褐色	ローム粒多い	礫粒少量		ややハード	
	4	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量	礫粒少量		ややソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色	(3)と同じ				
	6	10YR2/2	黒褐色	ローム粒少量	礫粒少量		ソフト	
	7	10YR2/2	黒褐色	ソフトローム少量				炭微量
	8	10YR2/2	黒褐色	ソフトローム少量	礫粒微量			炭微量
	9	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量	礫粒少量		ややしまり有り	
	10	10YR2/3	黒褐色	ローム粒	礫粒(7・8)よりローム粒多い			
	11	10YR4/3	鈍い黄褐色				全面やや粘質	炭少量
	12			注記無し				
	13	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量	礫粒少量	B-Tm少量	ややしまり無し	炭微量
	14	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	粘土		ハード	
	15	10YR3/4	暗褐色	礫粒			(14)よりソフト	

表11 第135号墓土層観察表(A~A')

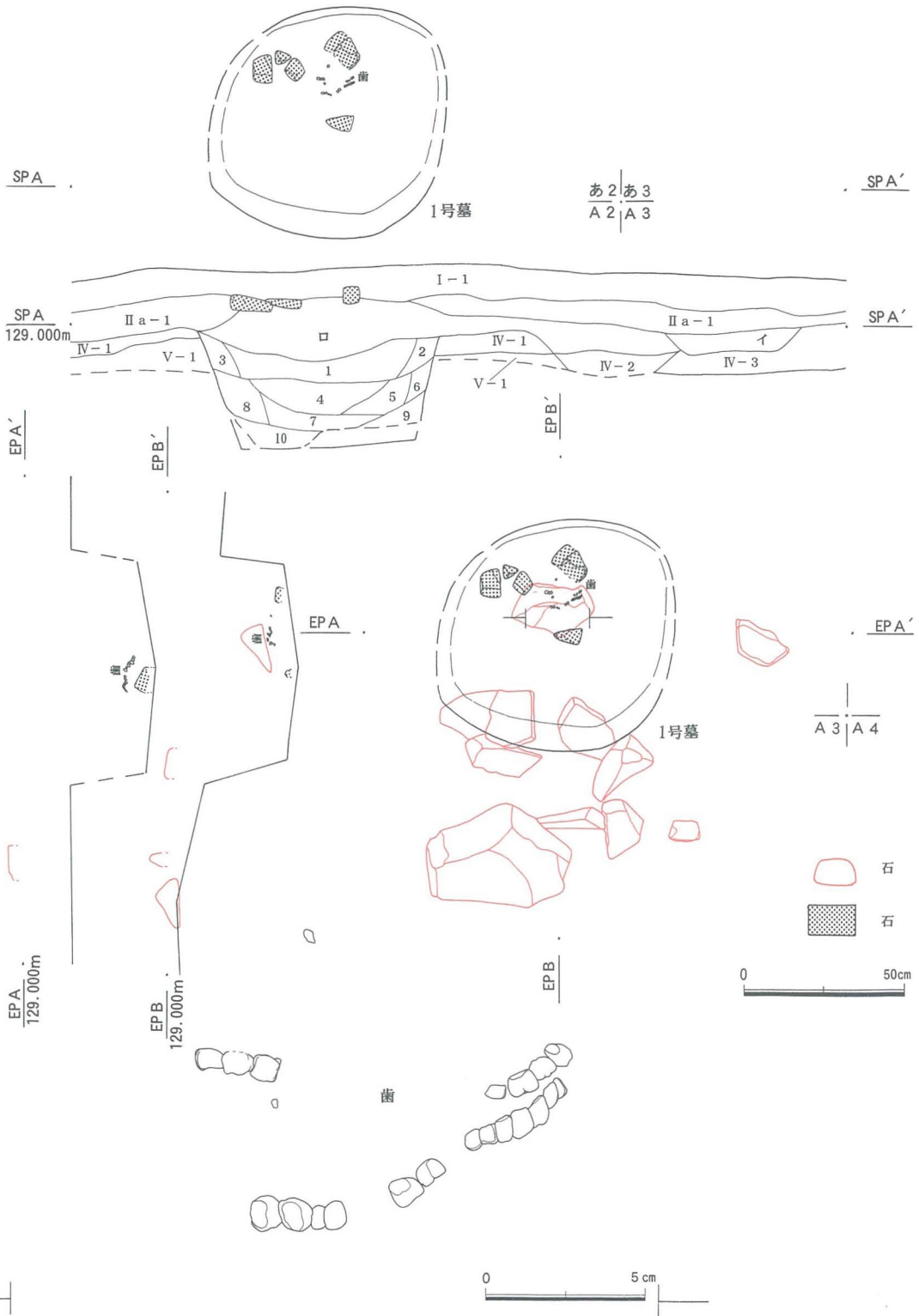
	IV-1	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体	混ざり無し		ソフト	しまり無し
135号墓	1	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体	混ざり無し		ややハード	しまり有り
	2	10YR3/2	黒褐色	Ko-d多量	礫粒		ソフト	
	3	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体	礫粒		ソフト	炭粒少量
								焼土粒

表12 第135号墓土層観察表(B~B')

	IVa-1	10YR2/2・3/3	黒褐・暗褐色	暗褐色土主体	礫粒少量	ローム粒	ソフト	
	IVb-1	10YR2/3	黒褐色	B-Tm混じり			シルト	ソフト
135号墓	イ	10YR3/2	黒褐色	Ko-d多量	礫粒		ソフト	炭粒少量
	ロ	10YR3/2	黒褐色	ローム粒			ソフト	炭粒微量
	ハ	10YR3/2	黒褐色				ソフト	(ロ)よりやや暗い
	ニ	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体	礫粒		ソフト	炭粒
	ホ	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土主体	ローム		ソフト	炭粒
	ヘ	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土主体	ローム		ソフト	炭粒

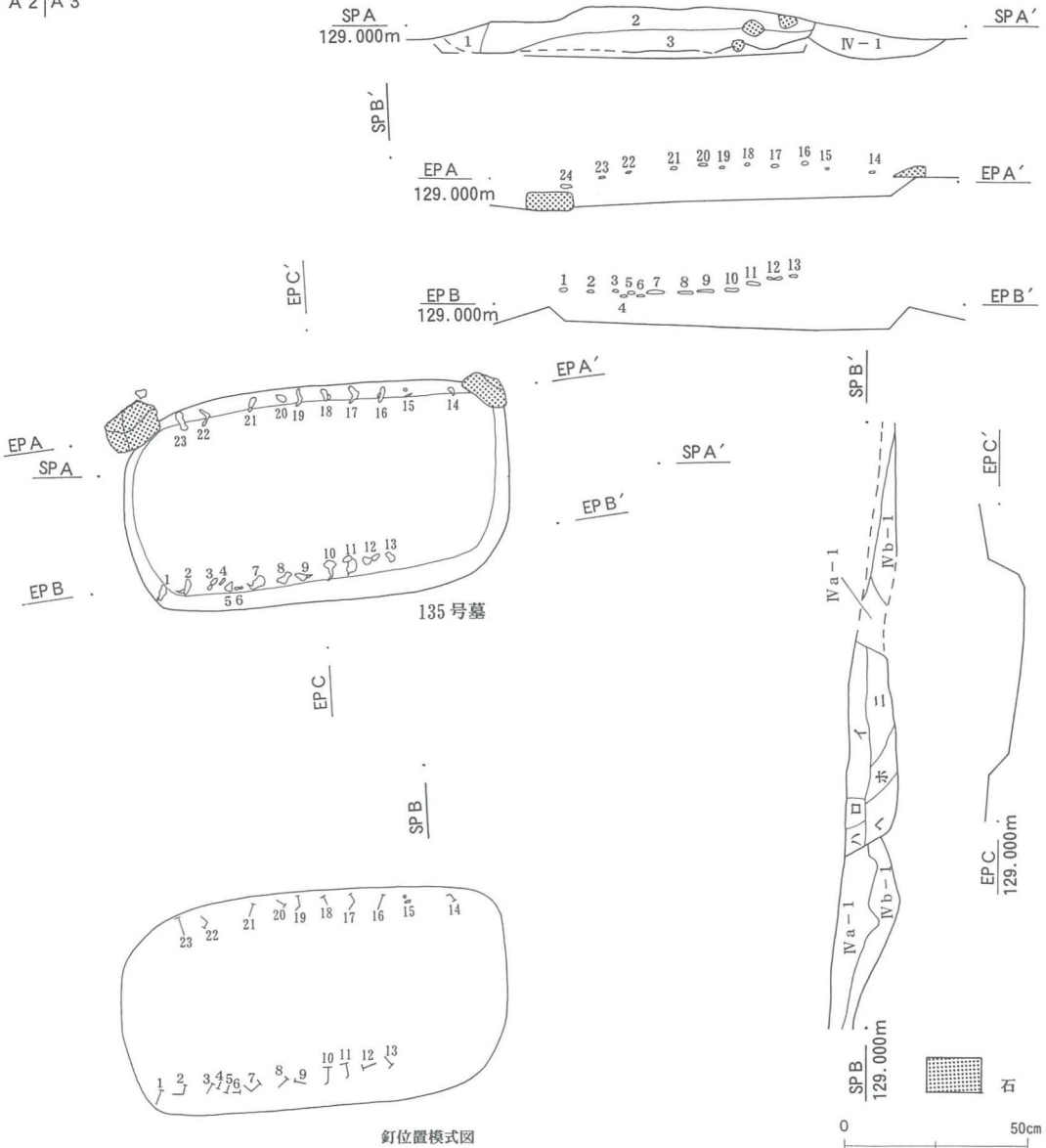


第13図 第126号墓遺物分布図他

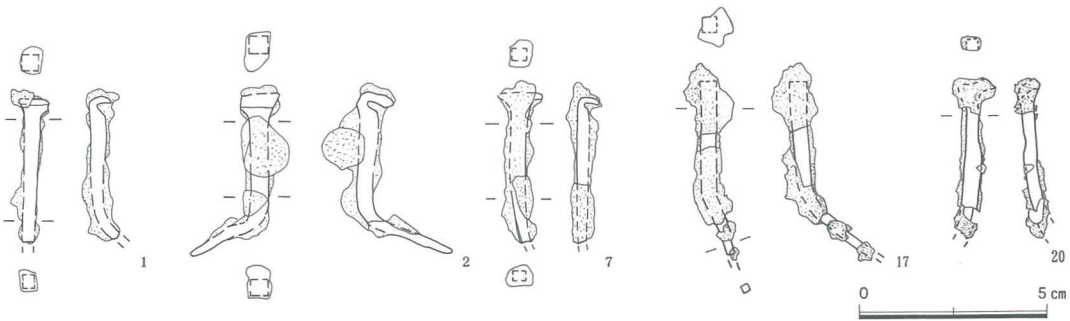


第14図 第1号墓 平面図他

A2 | A3



釘位置模式図



第15図 第135号墓 平面図他

表13 墓壇出土遺物一覧

墓 No	種別 数量	炭 化 物							計	人 骨	遺 物			
		加工材	自然木	禾本科	米	ぶどう	不明種子	発炭泡化状物			鉄釘	銅銭	数珠玉	
第123号墓	数量		1	34	28	2	5		70		66	11	53	
	重量(g)	2173.3	0.1以下	0.1	0.3	0.1以下	0.1以下		2177.9	5.4	89.7		2.1	
	備考		樹皮		付ブロック状3個		2種	発炭炭化米他		小片2.7	完品2	細・碎片 ≒40片	(連串心子か) 半次母珠 小珠 完品	
総採取量	考													
185.55kg														
第131号墓	数量										89	10		
	重量(g)	105.6							105.6	26.1	177.5			
	備考									小片21.4g 細片4.7g	完品11	細片13 溶解粒9粒		
総採取量	考													
56.95kg														
第133号墓	数量						8粒・10片		18		59	4		
	重量(g)	2507.4	1.2	0.8	41.9			2.2	2563	58.4	64.1			
	備考		柴	茎・節	付ブロック状		大型種子	発炭炭化米他			完品2			
総採取量	考													
95.35kg														
第124号墓	数量										30	10		
	重量(g)	41.1		3.9					45	18.5	64.8			
	備考									小片13.3g 細片4.5g 炭化(黒色) 0.7g	完品3			
総採取量	考													
314.85kg														
第134号墓	数量									7(4)	1			
	重量(g)	0.6							0.6	5.6				
	備考													
総採取量	考													
120.80kg														
第126号墓	数量									5	21	7		
	重量(g)	2.8							2.8	0.2	61.2			
	備考									小片				
総採取量	考													
第1号墓	数量						1		1					
	重量(g)	0.6					0.1以下		0.6					
	備考	小片 細片												
総採取量	考													
61.55kg														
第135号墓	数量										47			
	重量(g)	0.3							0.3		51.6			
	備考										完品2			
総採取量	考													
34.20kg														
総計採取量	総数量		1	34	28	2	18		89	12(4)	313	42	53	
869.25kg	総重量(g)	4831.7	1.2	4.8	42.2	0	2.2	13.2	4895	114.2	508.9	0	2.1	

表14 墓壇出土角釘計測表

火 葬 墓																						
墓壇No 寸法 規格		第 123 号 墓					第 131 号 墓					第 133 号 墓					第 124 号 墓					(イ) 小計
		長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	
完 品	二寸三分						69・70	7・8	6・9	3.2~5.2	3											3
	二寸二分						66・67	5・7	5	4.9~5.5	3	66	8	7	6.3	1						4
	二寸一分						62・64	7	6・8	3.2~6.1	3											3
	二 寸	59・61	5	4・5	3.3~3.8	2	60	6	6	4.5	1	60	4	5	3.0	1						4
	一寸八分						56	9	7	3.0	1						55	6	6	8.1	1	2
	一寸六分																46	5	5	1.8	1	1
小 計						2					11					2						2
先端部欠損品		(54・56)	5・6	5	(1~4.1)	2	(44~58)	(5~9)	(4~8)	(2.1~5.1)	10	(29・31)	(4・5)	(3・4)	(1.0・1.1)	2	(40~64)	(5~7)	(3~8)	(1.3~6.9)	7	21
その他欠損品						62					68					55						21
出土点数計(点)						62					89					59						30
土 葬 墓																						
墓壇No 寸法 規格		第 134 号 墓					第 126 号 墓					第 135 号 墓					(ロ) 小計	備 考	合 計 (イ+ロ)			
		長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計 (点)						
完 品	二寸三分																0	<> は斜長 () は欠損品	完 品	二寸三分	3	
	二寸二分											(55) (38) 62・64	6・7	5・7	2.7・4.1	2	0			二寸二分	4	
	二寸一分															2	二寸一分			5		
	二 寸															0	二 寸			4		
	一寸八分															0	一寸八分			2		
	一寸六分															0	一寸六分			1		
小 計						0					0					2	2	小 計			19	
先端部欠損品		(47)	(8)	(6)	(3・4)	1	(38~56)	(5~24)	(5~16)	(3.1~3.7)	8					0	9	先端部欠損品			30	
その他欠損品						6					13					45	64	その他欠損品			270	
出土点数計(点)						7					21					47	75	出土点数総計(点)			319	

2 土壌、焼土

土壌2 (第16図)：調査区中央B・2、3区で検出した。134号墓の北に位置し、墓墳より古い。土層図イ～ヘにある少量の駒ヶ岳火山灰やソフトロームを含む黒～黒褐色土の堆積があり、土壌を想定し調査した。ソフトロームを含む暗褐色土層がその下に10cm弱の厚さで堆積し、墳底にいたる。この下位土層中には基盤に含まれる扁平な角礫が見られる。墳底が長軸中央で一旦立ち上がっており、礫もそれぞれに集まるようであり、2基の土壌の切り合いかと推される。南東半の1基の南西壁が134号墓や近代?の溝、'83年のトレンチなどで壊され、形状をあいまいにさせているようである。覆土中からの出土遺物もなく、性格は不明である。

焼土3～5、土壌3・8 (第16図)：調査区中央北部A・2、3区で焼土溜りを検出した。焼土4、5はIV、V層を掘り込んだ浅いピット内に堆積している。ピットの底や壁に被熱の痕は見られない。3は上面観察では小範囲の分布と捉え図化しているが、土層の断面観察からは焼土粒や炭粒がさらに広く分布していることが分る。4の周縁部と推される。

焼土溜りの土層断面を観察中、その下部で土壌3、8が見つかった。3は70×95cmの隅丸方形で深さは30cmほどである。覆土上半部は軟らかい暗褐色土からなり、下半、北壁よりにロームブロック

クや礫粒混じりの堅い褐色土が堆積する。墳底に小柱穴がある。8は土層断面に覆土状の堆積がありプランを想定したものである。3、8ともにB-Tm層の下部にある。

土壌5 (第17図)：調査区東あ、A・5区で基本土層の観察中、V層中に黒・暗褐色土の堆積があり、精査し土壌とした。1×1.5mほどの長円形で深さは15cmほどである。覆土中に少量の焼土粒や炭粒が見られた。南西半に覆土を掘り込む浅いピットがあり、硬く粘性のある覆土中に若干の焼土粒や炭粒が含まれている。本来の掘り込み面は更に上かとも推測されるが不明である。

土壌6、7 (第17図)：調査区北東、あ、A・4区で基本土層の観察中に検出した。

土壌6はV層を掘り込み面とし、B-Tm火山灰が上面一部を覆う。覆土は柔らかな暗褐色土と粘土質の硬い層とが入り混じった堆積となっている。土壌7と重複するが、トレンチの位置とも重なり、北部の形状を捉えられなかった。7より新しい。

土壌7もV層を掘り込み面としている。北側覆土の上部にはII層が堆積する。覆土は上部中央に硬い粘土層がやや厚く堆積し、その下、中位は柔らかな暗・黒褐色土、下部は密な粘質土層の堆積と大きく捉えることが出来る。南側上部に僅かに焼土粒が見られる。底面は中央が一段下がり、小さなステップ状をなしている。

6、7ともに遺物などの出土はない。

表15 土壌2土層観察表 (A～A')

土壌2	イ	10YR1.7/1	黒色	ソフトローム微量	ソフト	炭少量
	ロ	10YR2/2	黒褐色	Ko-d少量	ソフト	炭少量 焼土粒少量
	ハ	10YR1.7/1	黒色	Ko-d少量	ソフト	炭少量
	ニ	10YR2/3	黒褐色	Ko-d少量 (ロ)よりソフトローム多い	やや粘り有り	炭少量
	ホ	10YR2/2	黒褐色	Ko-d少量 ソフトローム少量	(イ)より少し粘り有り	炭少量
	ヘ	10YR2/2	黒褐色	ローム粒	ソフト	炭やや多い 焼土粒
	ト	10YR3/3	暗褐色	ローム混じり	(ホ)よりハード	炭少量 焼土粒少量
	チ	10YR3/3	暗褐色	粘土混じり	ややハード	炭少量
	リ	10YR3/3	暗褐色	ローム混じり	(ト)より少しソフト	炭少量 焼土粒少量
	ヌ	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム多い	やや粘土質	炭少量
	ル	10YR3/4	暗褐色	ソフトローム多い	粘土質	炭少量 焼土粒少量
134号墓	あ	10YR4/3	鈍い黄褐色	ロームブロック多い		炭少量

表16 土壌3・8土層観察表 (A～A')

	IVa-1	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒少量		
	IVb-1	10YR7/2	鈍い黄褐色	全面火山灰		
	V-1	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量 ソフトローム	ややソフト	
	V-2	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒	ややソフト	
	V-3	10YR3/4	暗褐色	礫粒多い	ハード 粘土質	
	VI-1	10YR5/6	黄褐色	礫粒少量 ハードローム		
焼土3	1	10YR4/6	褐色			炭少量(火山灰が焼けたよう)
	2	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒		焼土粒少量
	3	10YR4/4	褐色	礫粒 ローム粒少量	(2)より粘土質	焼土粒やや多い 炭少量
	4	10YR3/2・3/3	黒褐・暗褐色	礫粒	ポロポロしている	炭混じり 焼土粒少量
	5	10YR5/6	黄褐色			焼土粒少量 炭少量(火山灰が焼けた)
土壌3	イ	10YR7/3	鈍い黄褐色	全面B-Tm		
	ロ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	粗	
	ハ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量	ややハード	
	ニ	10YR3/3	暗褐色	礫粒	ソフト	
	ホ	10YR3/4	暗褐色	礫粒	ややハード	
	ヘ	10YR4/4	褐色	礫粒多い 基盤礫 ロームブロック	ハード	
	ト	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒 ローム粒 B-Tm少量	ハード	
	チ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒多い 粘土 砂混じり	ガラガラしてハード	
	リ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒 ローム粒	ハード	
土壌8	あ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒 粘土混じり	ハード	
	い	10YR3/4	暗褐色	礫粒 ローム粒やや多い	(う)よりハード	
	う	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量	ややソフト	
	え	10YR3/4	暗褐色	礫粒やや多い 粘土混じり	やや粘り有り	
	お	10YR4/4	褐色	礫粒少量 ローム粒	ややソフト	
	か	10YR4/4	褐色	礫粒やや多い 基盤礫 粘土混じり	ハード 密	
	き	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒やや多い 粘土混じり	ハード 密	
焼土	1	7.5YR4/6	褐色	全面焼土		
	2	7.5YR3/4	暗褐色		ソフト	焼土粒やや多い

表17 土層5土層観察表(A~A')

	V-1,2	10YR4/6	褐色	礫粒少量		ハード 粘土質	
土層5	イ	10YR2/3	黒褐色	礫粒微量	ローム粒少量	ややしまり有り	焼土粒微量 焼土粒 炭粒微量
	ロ	10YR3/4	暗褐色	礫粒微量	ローム粒	ややハード ややしまり有り	
	ハ	10YR4/4	褐色	礫粒微量	ローム粒やや多い	ハード 粘土質	
	ニ	10YR2/3	黒褐色	礫粒微量	ローム粒少量	ややソフト	
	ホ	10YR3/3	暗褐色	礫粒微量	ローム粒少量	ややソフト	
	ヘ	10YR3/4	暗褐色	礫粒微量	ローム粒少量	ややソフト	
	ト	10YR3/3	暗褐色	礫粒微量	ローム粒少量	(ヌ)より少しソフト	
	チ	10YR3/4・4/4	暗褐色・褐色	礫粒微量	ローム粒	ややハード	
	リ	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒微量	ローム粒 ローム混じり	ハード 粘土質	
	ス	10YR4/4	褐色	礫粒微量	ローム粒少量 基盤礫少量	ややしまり有り	
ル	10YR4/4	褐色	礫粒微量	ローム粒少量	ややしまり有り		
ヲ	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒微量	ローム粒少量 基盤礫少量	ハード ややしまり有り		

表18 土層5土層観察表(B~B')

土層5	イ	10YR3/3・3/4	暗褐色	礫粒少量	ロームブロック	ややハード	焼土粒少量		
	ロ	10YR3/3・3/4	暗褐色	礫粒少量	ローム粒	ややソフト			
	ハ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒少量		ハード 粘土質			
	ニ	10YR4/4	褐色	礫粒少量		ハード 粘土質			
	ホ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	ローム粒少量	ややハード			
	ヘ	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量		ハード 粘土質			
	ト	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	ローム粒少量	(ホ)より粘り有り			
	チ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒少量		ハード 粘土質			
	Pit18	あい	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量			ややソフト	焼土粒
		いう	10YR2/3	黒褐色	礫粒少量	ローム粒		(い)より少し粘り有り	
え		10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	ローム粒	ややハード			
お		10YR4/4・4/3	褐・鈍い黄褐色	礫粒少量	ローム粒多い	ハード 粘土質 ややしまり有り			
か		10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	ローム粒少量	ややしまり有り			
き		10YR4/3・4/4	鈍い黄褐色・褐色	礫粒少量		ハード 粘土質			
く	10YR4/4	褐色	礫粒少量		ハード 粘土質				

表19 土層7土層観察表(A~A')

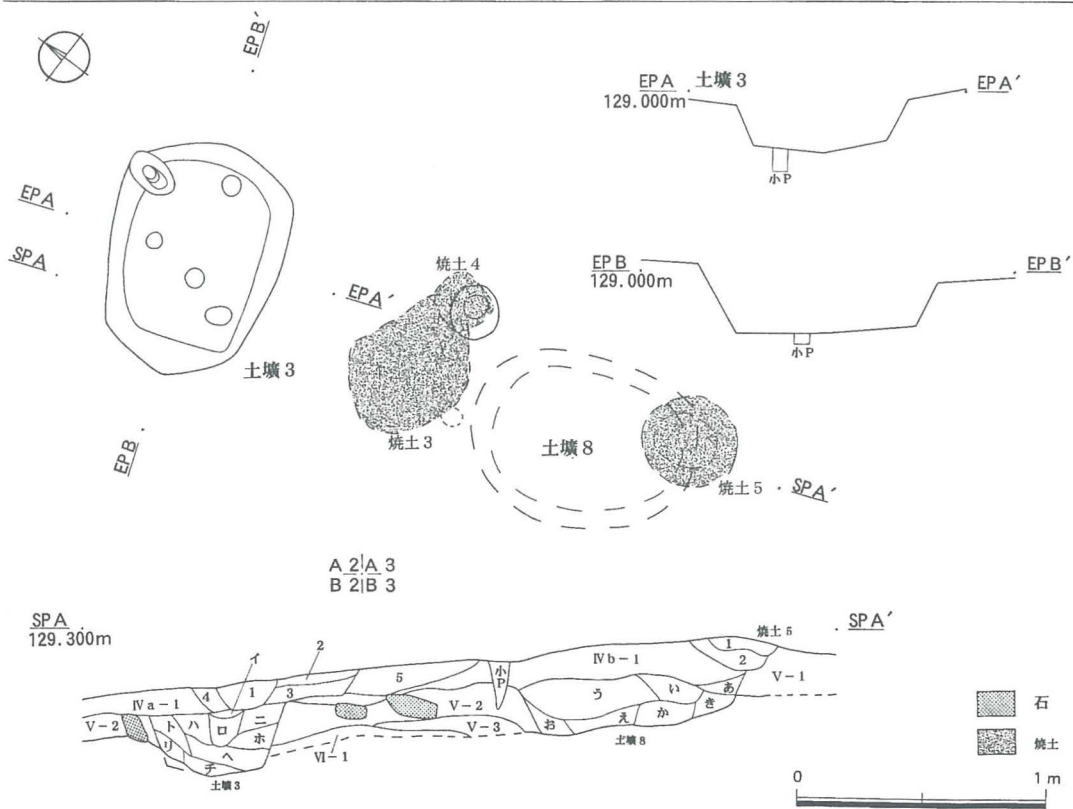
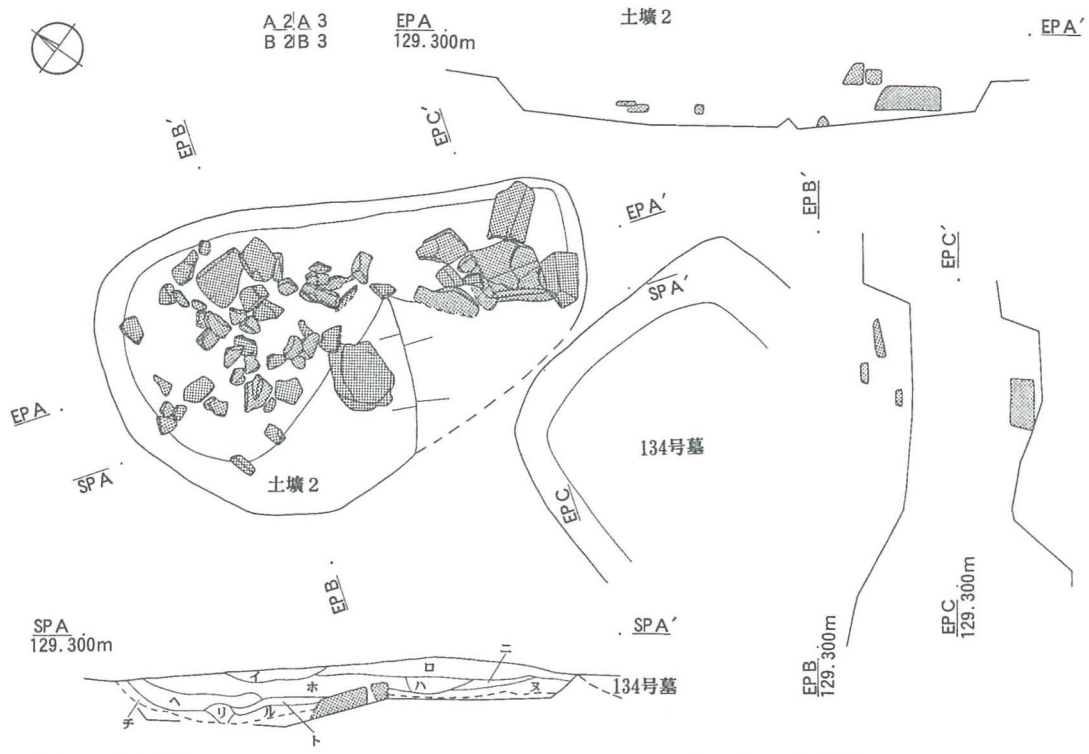
	II-1	10YR3/4	暗褐色	礫粒	ローム粒	ややソフト	ボロボロ
	V-1	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒	Ko-d少量	ハード	粘質
	V-2	10YR4/4	褐色	ロームブロック多い	黒色土少し混じり	ややハード	
土層7	1	10YR4/4	褐色	ソフトローム	ロームブロック多い	ソフト	炭粒微量
	2	10YR4/3	鈍い黄褐色	ローム粒多い	ロームブロック少量	ソフト	
	3	10YR4/3	鈍い黄褐色	ローム粒少量		ソフト	
	4	10YR4/3・4/4	鈍い黄褐色・褐色	ローム粒少量	ロームブロック多い 黒色土少量	ソフト	
	5	10YR4/4・4/6	褐色	ロームブロック多い		ややハード 粘土質	
	6	10YR4/3	鈍い黄褐色	ローム粒	ロームブロック少量 黒色土少量	ややソフト	
	7	10YR2/3	黒褐色	ローム粒少量		ややソフト	
	8	10YR3/4	暗褐色				
	9	10YR4/4	褐色	ロームブロック多い	黒色土少し混じり	(6)より粘り有り	
	10	10YR3/2	黒褐色	ローム粒少量		ソフト	
	11	10YR3/4	暗褐色	ローム粒少量		ややソフト	
	12	10YR4/6	褐色	褐色ローム	黒色土少し混じり 礫粒微量	(13)より少しソフト 粘土質	
	13	10YR4/6	褐色	褐色ローム	黒色土少し混じり 礫粒微量	粘土質 密	
	14	10YR4/6	褐色	ロームブロック多い		ややハード 粘土質	
	15	10YR4/4	褐色	ロームブロック多い		ややハード 粘土質	
	16	10YR4/6	褐色	褐色ローム	黒色土少し混じり	粘土質	

表20 土層7土層観察表(B~B')

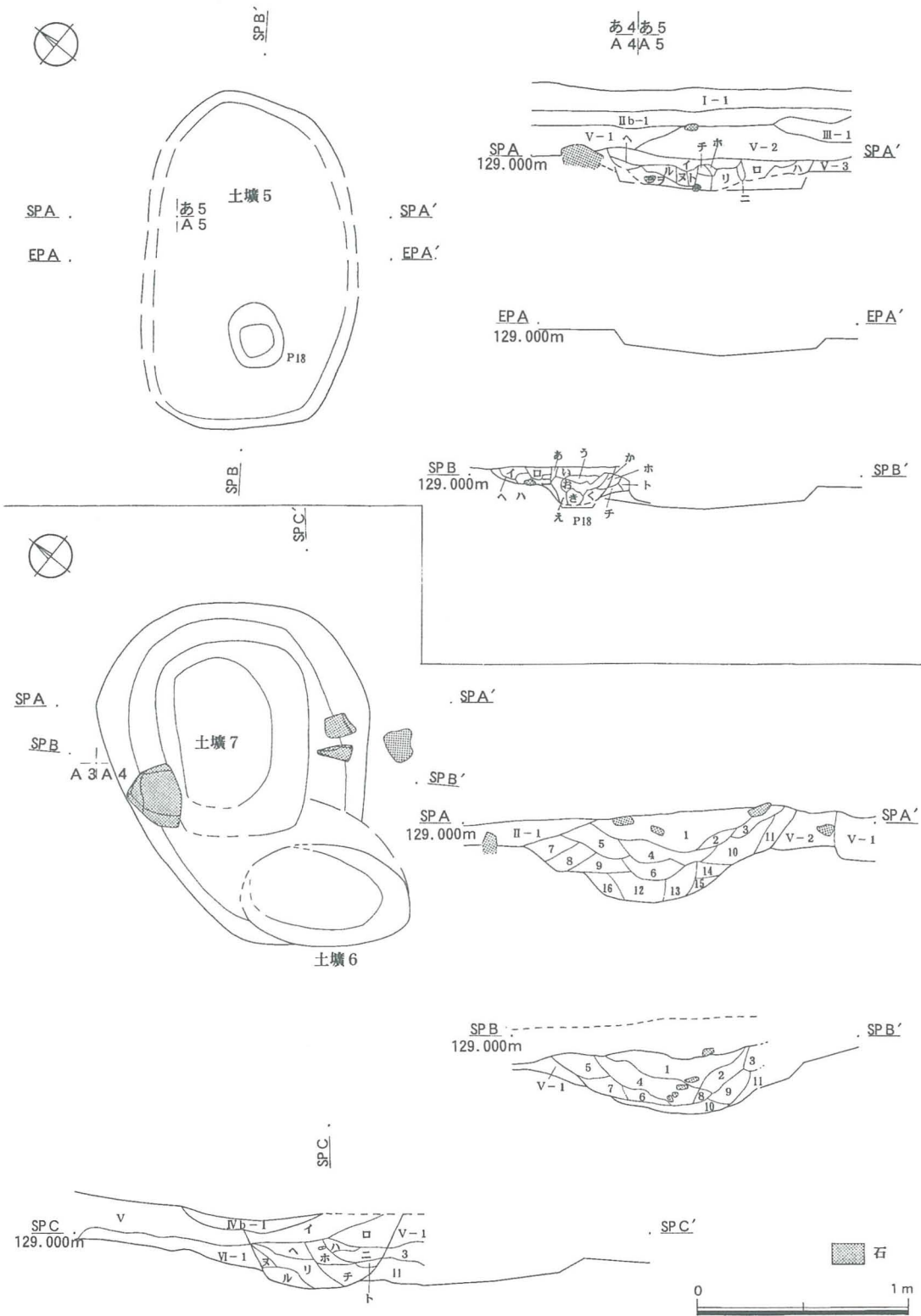
	V-1	10YR4/4	褐色	礫粒	基盤礫 石	ハード	粘土質
土層7	1	10YR4/6	褐色	礫粒		ハード	粘土質
	2	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒		粘土質	(1)より粘り有り
	3	10YR4/6	褐色	礫粒		粘土質	しまり有り
	4	10YR3/4	暗褐色	礫粒	ロームブロック多量	ハード	密
	5	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒	ローム粒多い	少しボロボロしている	
	6	10YR4/6	褐色	礫粒少量		粘土質	少しベタベタしている
	7	10YR4/6	褐色	礫粒		ハード	粘土質 (6)より粘り有り
	8	10YR4/6	褐色	礫粒	ソフトローム		
	9	10YR4/4	褐色	礫粒	ソフトローム		粘り有り
	10						
	11	10YR4/3・4/4	鈍い黄褐色・褐色	礫粒	ソフトローム 基盤礫少量	(3)よりソフト	粘土質 粘り有り

表21 土層6土層観察表(C~C')

	IVb-1	10YR		全面B-Tm						
	V	10YR4/4	褐色	礫粒	基盤礫 石	ハード	粘土質			
	VI-1	10YR4/4	褐色	礫粒	ハードローム					
土層6	イ	10YR3/4	暗褐色	礫粒	基盤礫少量	ローム粒少量	Ko-d少量	ややソフト		
	ロ	10YR4/3	鈍い黄褐色	礫粒	ローム粒多い			ややハード		
	ハ	10YR4/6	褐色	礫粒				ハード	粘土質	しまり有り
	ニ	10YR4/4	褐色	礫粒	ローム粒	ロームブロック		やや粗		
	ホ	10YR3/3	暗褐色	礫粒	ローム粒			ややしまり有り		
	ヘ	10YR3/4	暗褐色	礫粒	ローム粒			ややしまり有り		
	ト	10YR4/3・4/4	鈍い黄褐色・褐色	礫粒	ソフトローム	基盤礫少量		(11)より少しもろく粗		
	チ	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒	ロームブロック			ハード	ザラザラ	砂っぽい
	リ	10YR3/4	暗褐色	礫粒	ローム粒	ロームブロック	(9)よりロームブロック多い		ややしまり有り	
	ス	10YR4/4・4/6	褐色	礫粒				ハード	粘土質	
	ル	10YR4/4	褐色	礫粒	ロームブロック多量			ハード	粘土質	
土層7	3	10YR4/6	褐色	礫粒				粘土質	しまり有り	焼土粒
	11	10YR4/3・4/4	鈍い黄褐色・褐色	礫粒	ソフトローム	基盤礫少量		(3)よりソフト	粘土質	粘り有り



第16図 土墳2・3平面図他



第17図 土壌5・6・7平面図他

3 その他の遺構・遺物

近世～近代の土塁：調査区中央B・1、C・1境界からA・6、B・6区方向に高さ1m、幅2～3mの土塁が続いている。墳墓群第Ⅱ地区から第Ⅰ地区を経、更には八幡牧野の東境を画して南へ続いているものである。幕末～明治期に畑地への放牧馬の侵入を防ぐため、鯉漁の閑散期に雇いの漁夫を動員して作られたと伝えられる。またその頃、松前氏に関わる土地の区画を明示したとの伝えもある。一部勝山館跡搦手付近にもあり、江戸時代以降のものと判明している。

本調査区内では、この土手を築くために南西部を削平してその土を積み上げ、更にその両側に溝状に掘上、土を積み上げている。

また、1955年代以降、夷王山祭りの協賛行事がこの付近で催され、それに伴う整地盛り土も行われている。本調査区南西部で、遺構の残存状況が悪いのはこれらの削平によるものと推される。

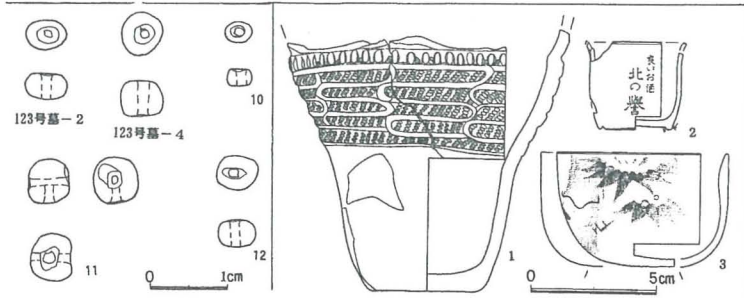
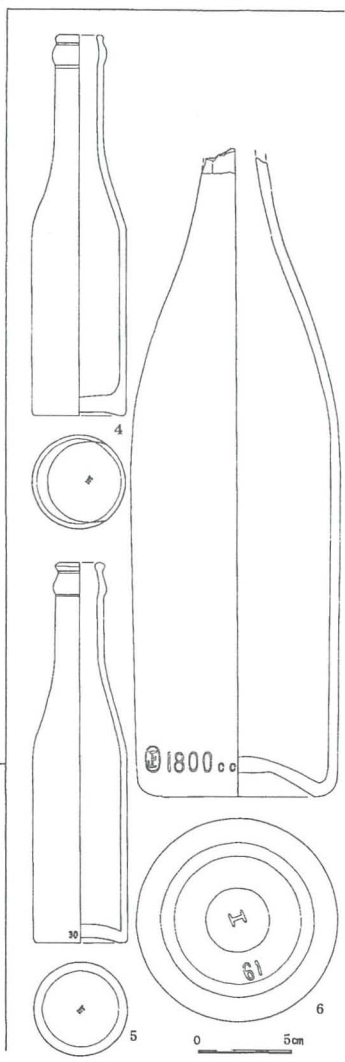
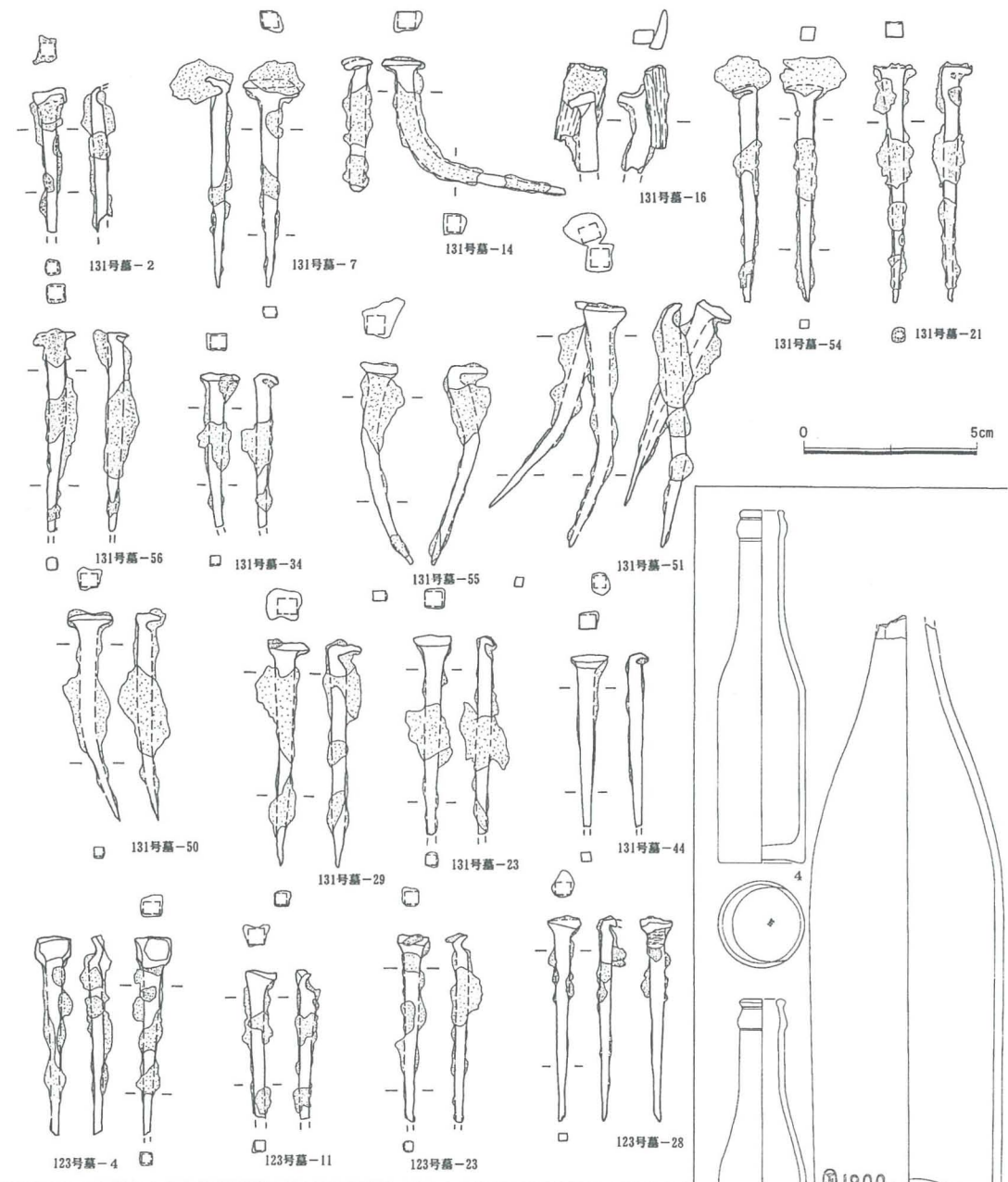
縄文土器（第18図）：1は調査区東、A・5区、第Ⅴ層上面から一括出土した縄文時代後期の深鉢形土器である（PL.11）。口縁部が打ち欠かれ、欠失する。口縁部文様帯と頸部文様帯を刺突列で画し、その下と、胴部との境に凹線を廻らして頸部文様帯を画している。刺突列の上部は丁寧に磨かれ無文をなすが、欠失しているためその上は不

明である。頸部文様帯にはLR斜縄文を施文し、上下の凹線の間を横長の逆S字状沈線で繋いでいる。沈線は右回りに付けられる。周辺部を精査したが掘り込みその他を確認することは出来なかった。土壌5～7としたが遺構と確定出来なかったものが関連するのかもしれない。

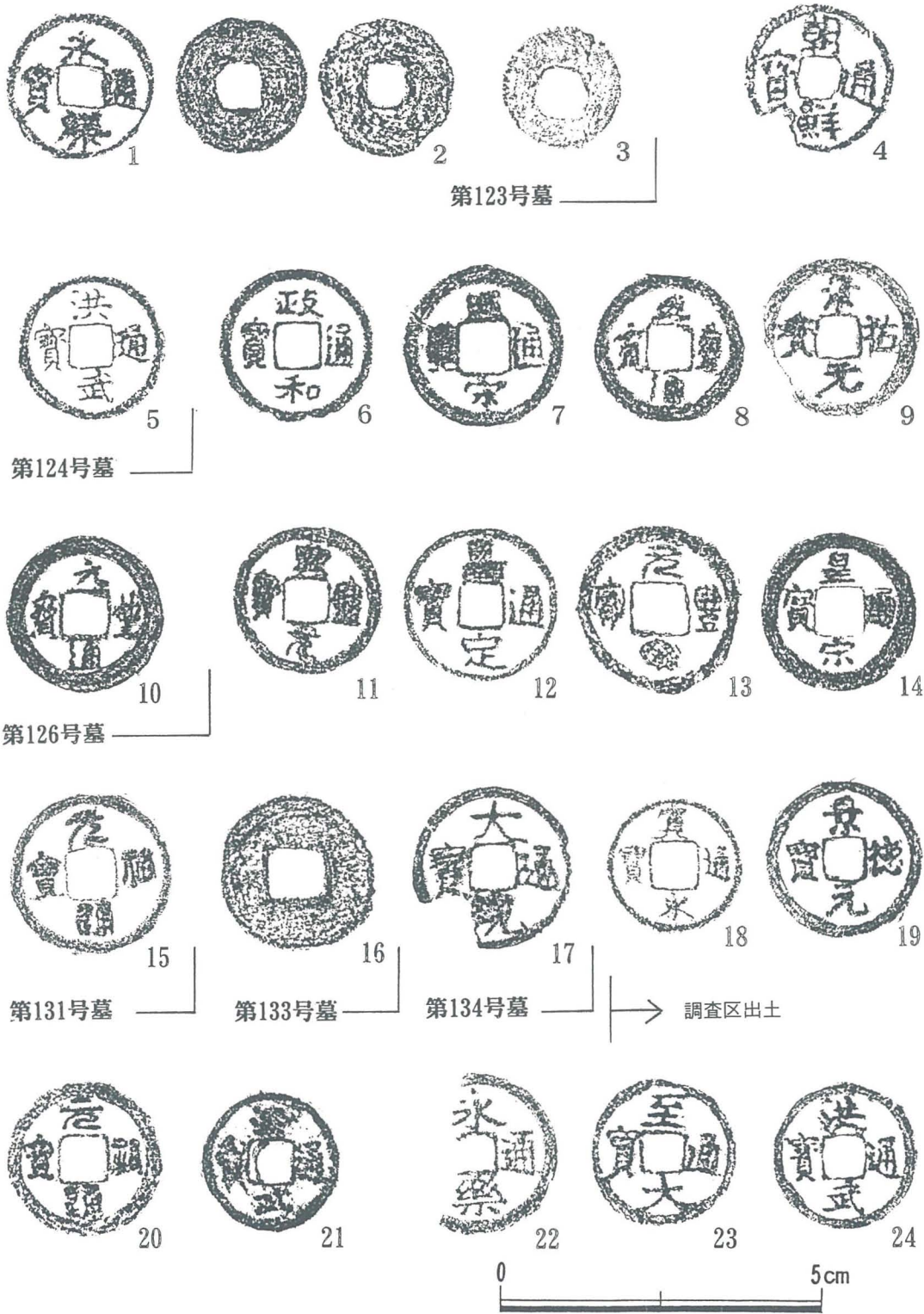
銅銭（第17図、表22）：墓墳外の調査区から別表のような銅銭が出土し、主なものを図示した。寛永通宝3、無文銭5、明銭4、元銭1、北宋銭4などである。寛永通宝はⅠ、Ⅱ層から出土の、新寛永で鉄一文銭もある。江戸時代を通じ松前藩士や文人墨客、近在の人々が夷王山山頂に足を運んだ時の物であろうか。近世にこの墳墓群に直接参詣したという記録は今のところ知られていない。

渡来銭等は埋葬時に棺内に埋納するだけではなく、埋葬時に散銭などが行われたものが移動したことによる物であろう。なお、明～北宋銭の分類比定は銭名と初鑄年によった。

一升瓶他（第18図）：18図2～6は調査区南部、B～D・5区から出土した現代の酒器等である。6の一升瓶はB・5区溝の覆土上部からの出土であるが、溝の埋没過程での投棄によるものと推される。前述の'55年代以降の夷王山祭りに関連するものであろう。



第18図 墓壙出土遺物他



第19図 墓壙他出土銅銭

表22 出土銭一覽表

イ. 墓出土銭一覽表

遺構番号	銭種(名)	枚数	書体	残存状況	備考	搜図NO.
第Ⅱ地区第123号墓	洪武通寶	1	真書	半欠	模鑄銭	
	永樂通寶	1	真書			19図-1
	判読不能	5		半欠3、細片1		19図-2
	無文	4		半欠1、細片2		19図-3
計		11				
第Ⅱ地区第124号墓	天聖元寶	1	真書	半欠		
	熙寧元寶	1	篆書			
	紹聖元寶	1	篆書	半欠		
	洪武通寶	1	真書			
	朝鮮通寶	1	真書			19図-5
	永樂通寶	1	真書	半欠		19図-4
	判読不能	4		半欠2、細片2	小片の1は折重、被熱変形、摩耗	
計		10				
第Ⅱ地区第126号墓	開元通寶	1	分楷	小片		
	景祐元寶	1	真書			19図-9
	元豊通寶	2	行書		摩耗	19図-8・10
	政和通寶	1	分楷			19図-6
	皇宋通寶	1	分楷			19図-7
	洪武通寶	1	真書	小片×1		
計		7				
第Ⅱ地区第131号墓	熙寧元寶	1	篆書			19図-11
	元豊通寶	2	篆書		同型	19図-13
	元祐通寶	1	篆書			19図-15
	皇宋通寶	2	真書		同型	19図-14
	嘉定通寶	1	真書			19図-12
	判読不能	3		小片	被熱変形	
計		10				
第Ⅱ地区第133号墓	□□□寶	1	分楷	半欠	被熱変形	
	判読不能	2		細片1	被熱変形	19図-16
	無文	1				
計		4				
第Ⅱ地区第134号墓	大觀通寶	1	真書			19図-17
計		1				
小計	16種	43				

ロ. 調査区出土銭一覽表

調査区	銭種(名)	枚数	書体	残存状況	出土層位	備考	搜図NO.
	景德元寶	1	真書		I		19図-19
	元祐通寶	1	篆書	4枚	II	被熱	19図-20
	宣和通寶	1	篆書		I		
	至大通寶	1	真書		IVa	2枚重ね	19図-23
	洪武通寶	2	真書		II・IVa	II模鑄銭	19図-21・24
	永樂通寶	1	真書		IVa		19図-22
	□□元□	1	篆書	小片	II		
	判読不能	9		半欠2、細片1	I・II・IVa		
	無文	5			I・II		
計	7種	23					
	寛永通寶	3	真書		I・II	I・新寛永1、鉄一文1	19図-18
計		3					
小計		26					
合計(イ+ロ)	20種	69				内、寛永通寶 3	

Ⅲ まとめ

300m以下と面積が定められているガイダンス施設内に展示する墓塚を検出すべく、同面積の発掘調査区を設定し、調査に着手した。調査区の南東部に土葬墓である5号墓が、北西部に火葬の墓と火葬施設である125、136号墓が検出された。2号墓標識杭の付近では墓が見つからず、1号墓の検出状況も曖昧なため展示対象とはなし得ず、展示遺構が両端に離れ、来館者が墳墓群としての纏まりを体感するのが難しいと思われたので、調査区を北東部に拡張し遺構の検出を試みた結果、390m²が調査対象面積となった。

この調査区内には、1～5、14号墓の6基の墳墓が想定され、標識杭で表示していたが、2号墓は前述のように墓ではなく、4号墓付近では同時代の柱穴跡が検出されただけであった。なお、1、3、5、14号墓は土葬墓であった。

一方、1号墓の東に126、南西に135、124、134、西に115、131、北西に136、125、123号墓、5号墓の西に127号墓、14号墓の東に130号墓、調査区西隅に133号墓が検出され、計16基を数えた。115、123、125号墓は火葬墓、131、133、136は火葬施設であった。なお115号墓は過年度の検出である。

火葬墓としたものは円形の土壇内から焼骨や釘、銅銭などが見つかったものであるが、炭や炭化材など火葬の際に生じたものもあり、土壇の上で火葬した後に、埋葬したとも推される。一方、火葬施設としたものは十文字型の浅い溝状の掘り込み内から焼骨や釘、銅銭などが見つかったもので、炭や炭化材などもある。焼骨が比較的少ないので拾(集)骨し、再葬しているかとは推したが、残存している骨が、その後朽ちて土に返ったものがない、その時残った全量とは断定出来ないところであり、火葬後にそのままそこで埋葬している可能性も高い。十文字型の掘り込みは、火葬時に火の回りをよくするための通風機能を持ち、散見された杭跡状の小柱穴は、棺などを高く置く支柱とも思われるので、火葬を目的の第一にする遺構(=火葬施設)とはしたが、火葬墓と火葬施設を全く別の物として厳密に区別するのは無理かもし

れない。

今年度調査区内から検出した土葬墓は、木棺の大きさや歯の位置から、屈葬、北頭位の埋葬と推測される。

火葬、北頭位屈葬などの埋葬状況は、夷王山墳墓群に通有のものであり、一般に仏教様式、仏教に帰依した集団の墓とされてきたところである。ただ、今年度の調査でも火葬墓よりも土葬墓が多く検出されており、かつて火葬墳墓群と強調されていたその特徴は見直すことも必要なようである。やまぶどうの種子が見つかり、埋葬時期を秋と想定してみた。墓同士の新旧なども含め更に細部に留意しながら調査、分析を進めることが必要であることを再認識するところである。

勝山館の時代よりも古い時期の土壇があり、口縁部を打ち欠いたと思われる縄文土器が一括して出土するなど、この墳墓群の形成を考える新しい発見があった。土壇6、7とした物は遺構としてはやや曖昧な捉え方に終わったが、第2号墓標識杭の下位に位置しており、これが地形に影響して墳墓と認識し、表示することになったとも考えられるところである。まだ例が少なく、偶然とも思われるが今後留意すべきことと思われる。

事業開始の初期の頃、来訪者が散策路を歩きながら、発掘された墳墓などの内部を直に見られるようにできないものかと考え、仲野先生にご相談申し上げたことがあった。

勝山館跡の整備事業が史跡等活用特別事業(ふるさと歴史の広場)に採択され、そのガイダンス施設の中に墳墓の型取り表示をすることになった。

小さな町の覚束ない試みであり、どれだけ諸先生や文化庁のご指導や意に沿ったものに出来るか不安の多いところである。がそれにも況して、ここを訪れて下さる人たち、町の皆さんが納得して下さるような出来上がりを期して、微力ながらも努めなければならない。多くの皆さんにご指導とご鞭撻をお願いし、結びとしたい。

報告書抄録

ふりがな	しせきかみのくにかつやまだてあと							
書名	史跡上之国勝山館跡 XXIV							
副書名	平成14年度発掘調査環境整備事業概報							
巻次	24							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	松崎水穂							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 01395-5-2230							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせき 史跡 かみのくにかつやまだてあと 上之国勝山館跡 いおうざんかんぼく (夷王山愼墓群 第Ⅱ地区)	かみのくにかつやまだてあと 上ノ国町字勝山 427他	013625	C-02-2			平成14年5月7日～ 平成14年12月6日	390㎡	史跡整備事業 (史跡等活用 特別事業一ふ るさと歴史の 広場)に伴う 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
しせき 史跡 かみのくにかつやまだてあと 上之国勝山館跡 (夷王山愼墓群 第Ⅱ地区)	館跡 (墓地)	縄文・ 中世～ 現代	土葬墓10基 火葬墓5基	釘、銅銭、縄文土器 他		15・16世紀と推される 火葬・土葬墓を検出。		

図 版



1 130号墓遺物出土状況
(型取り前)



2 125号墓遺物出土状況
(型取り前)



3 123号墓検出状況



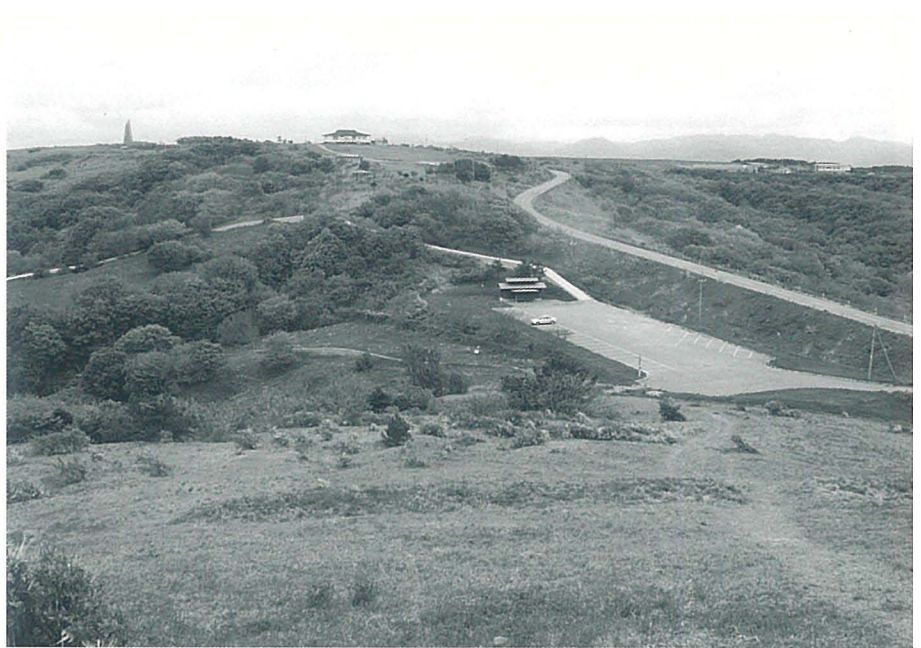
1 木橋・柵整備
(後方夷王山)



2 柵の整備
(夷王山々頂から)



3 柵の整備



1 遠景
(北東夷王山頂から)



2 中景 (同上)



3 遠景
(南西から後方夷王山)



1 調査区北壁イ
(北西角)



2 調査区北壁ロ



3 調査区南壁イ
(南西角)



4 調査区南壁ロ



1 墓検出状況



2 炭化物他検出状況



3 焼骨他検出状況



4 墓壙下部



5 完掘状況



6 数珠玉出土状況



7 玉拡大



2 131号墓土層堆積 (北西から)



1 131号墓検出状況、左は過年度調査115号墓(北西から)



4 完掘状況 (南から)



3 焼骨検出状況 (北西から)



6 炭化物など検出状況 (南西から)



5 133号墓検出状況 (南西から)



8 完掘状況



7 炭化物等拡大



1 土壙2、124、134号墓（南西から）
右白色火山灰が124・134号墓
右上4分の1の火山灰は除去済み
中央は'83年度トレンチ跡



2 土壙2 堆積状況（南西から）



3 124・134号墓上面（南西から）
（手前は'83年度トレンチ跡）



4 土壙2 下面（右端124・134号墓覆土-南西から）



5 土壙2 完掘状況（右下隅124・134号墓覆土-南西から）



1 124号墓検出状況（北西から）



2 124号墓下面（南西から）



3 134号墓掘り方（南西から）



5 134号墓完掘（北西から）



4 134号墓下面（木棺推定跡—北西から）



1 墓壇北東土層堆積（南西から）



3 木棺釘、銅銭出土状況（南から）



5 完掘状況（南西から）



2 棺内土層堆積（西から）



4 棺跡検出状況（右隅は銅銭－南から）



5 棺内検出状況（中央銅銭－北東から）



7 同左（北西から）



1

1・2 墓壇検出状況
(白色は1640年降灰Ko-d火山灰-1南、2南西から)



2



4 墓壇土層推積 (手前人歯-北東から)



3 調査状況 (後方は135号墓-北東から)



5 墓壇下部



6 人歯部分



1 135号墓棺?釘検出状況



2 同完掘状況



3 土壙3土層堆積



4 土壙5完掘状況



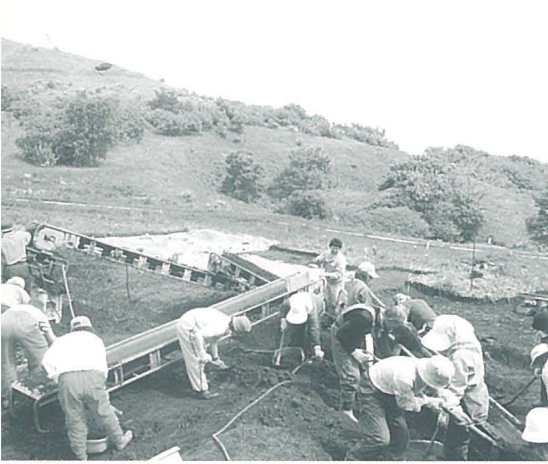
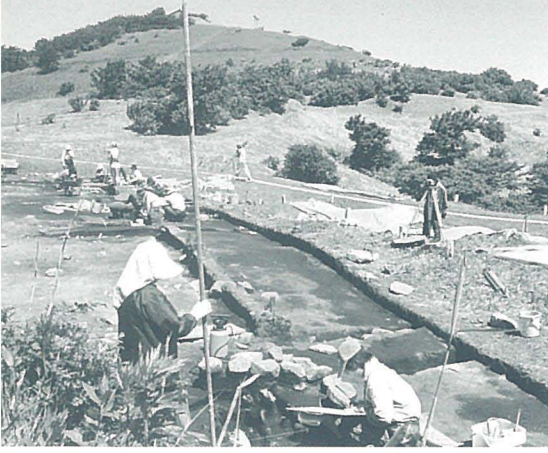
5 土壙6土層堆積



6 土壙7土層堆積



7 縄文土器出土状況





1 123号墓検出作業



2 124・134号墓検出作業



3 125号墓検出作業



4 131号墓検出作業



5 遺構検出状況 (131・115・123・125・136号墓－南西から)



2 125号墓



1 136号墓



4 3号墓



3 5号墓



6 6~8 136号墓型取り作業



5 127号墓



8



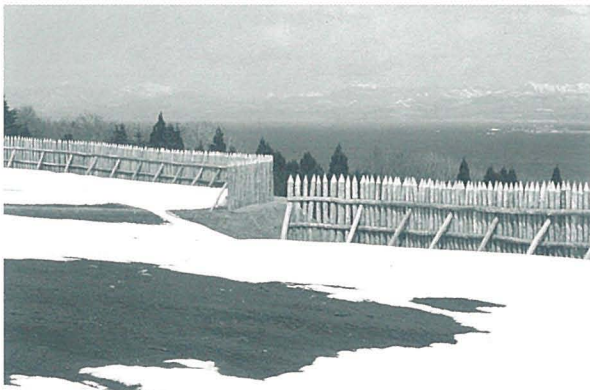
7



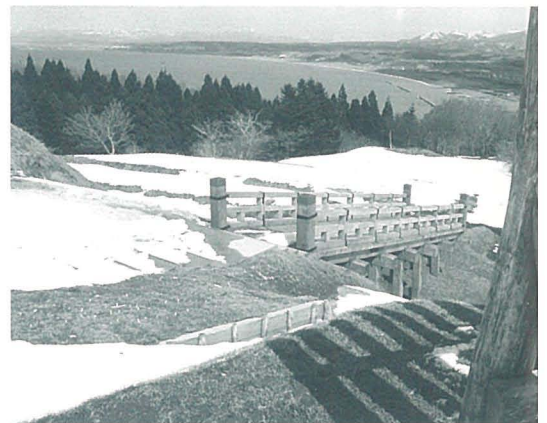
1 木橋・柵整備工事



2 木橋整備状況（後方夷王山）



3 柵、整備状況



4 木橋整備状況



5 柵、木橋整備状況



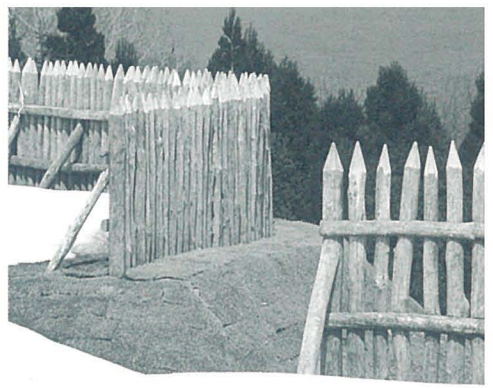
6 整備状況（中央通路から柵をのぞむ）



7 整備状況
（夷王山山頂から勝山館跡主体部をのぞむ）



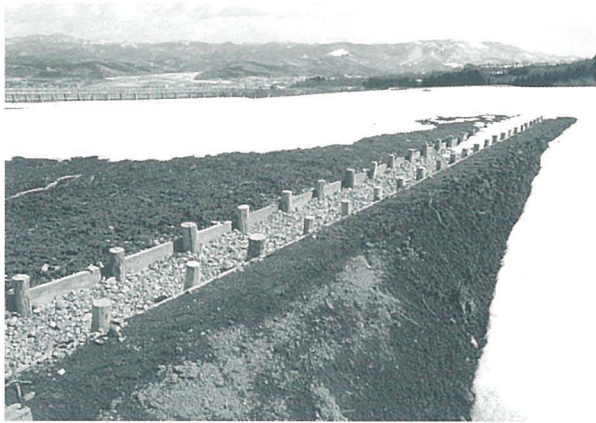
1



3



1 ~ 4 柵整備状況



5



5・6 敷地・地割界溝整備状況



7



7・8 木橋整備状況

史跡 上之國勝山館跡 XXIV

—平成14年度発掘調査環境整備事業概報—

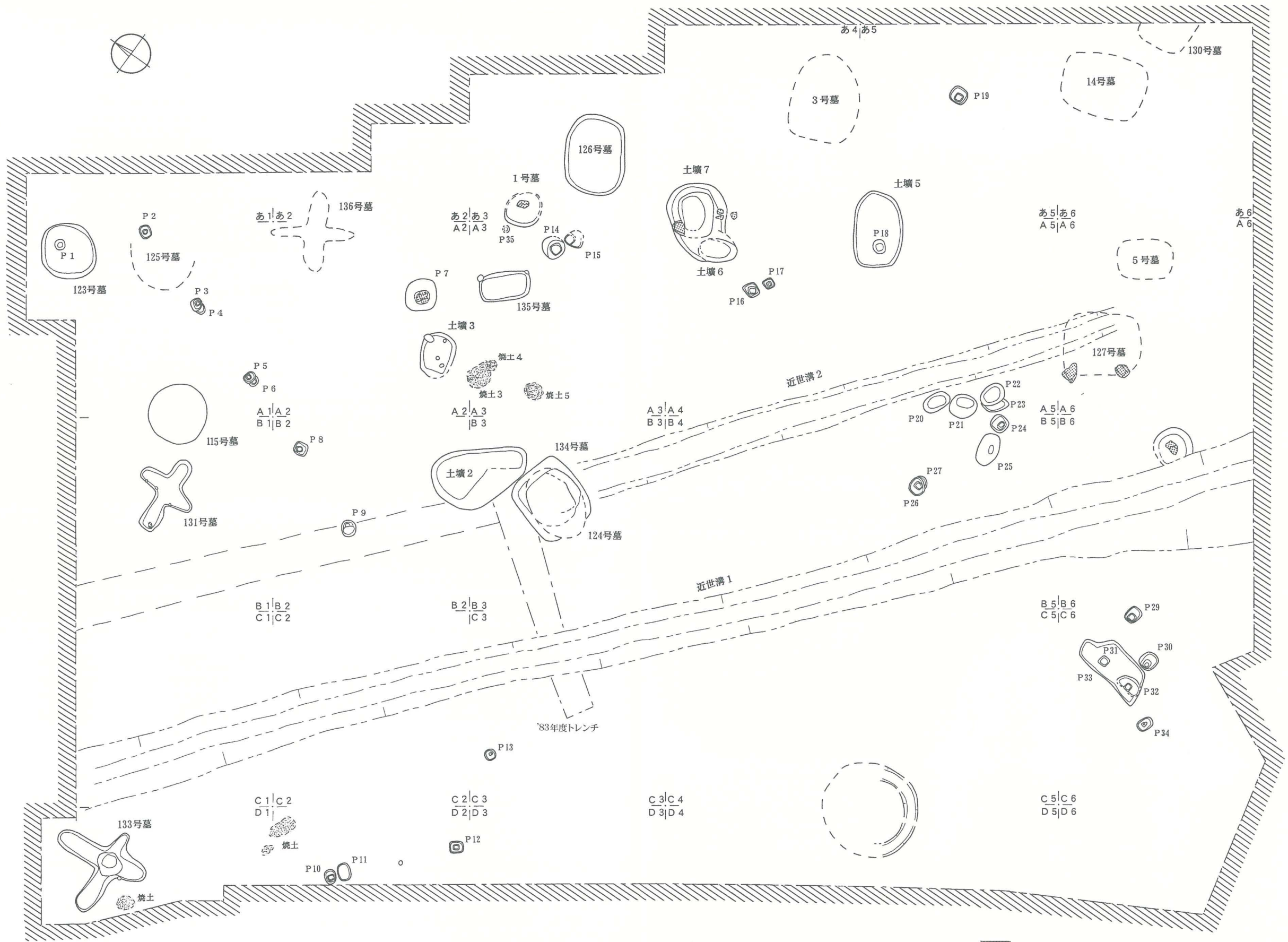
発行 上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町字大留100

印刷 平成15年3月28日

発行 平成15年3月31日

印刷所 榎第一印刷



附図 調査区遺構配置図

